

古今  
和漢

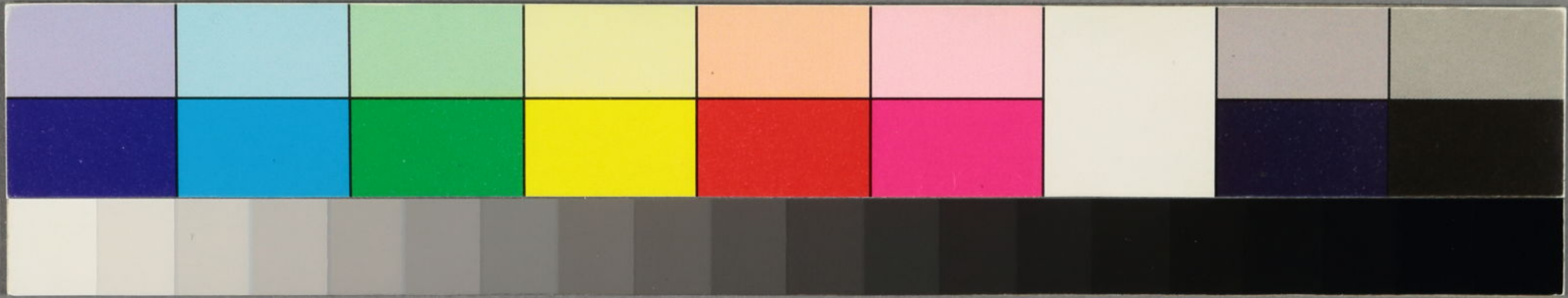
合類類書

万寶金書

十

序。目錄五  
 後蕃報治次中法報治  
 系房十云迄九十二卷  
 報治法國書目錄  
 國分法報治秘法法  
 山城地式大和地九二圖  
 上





古今録事



合類亦王



古今録事合類大全

序

史同科と云ハ先代歴治の化業  
ソレメキ センタイカガチ サゴウ  
 之國を征く同治時代を以て  
フクニソ サクドウ シライ ヨコク  
 知ると一に其後乃能之也又乃  
チ ヲヨク チカチ トイ ローヒ ヤキ  
 安忠乃能像乎以下國に接して  
スガチカコ カタチ ヤスリ シニテ  
 凡そ之所及也凡そ之所及也  
オラヒ オラヒ オラヒ  
 脈として法を以てし之を  
ニヤ コヒヤ シ  
 一他方より正法を以てし  
サタ サタ サタ  
 板小見定むる時は其教の多  
サト サト サト  
 化の多しと格を以てし之を  
カガ カガ カガ  
 分ち小者一安かんとす



△惣目録

一 後鳥羽院番帳決書二通

一 法國日帳一 雜進物各寄

一 可然物各寄 一新化物各寄

一 化熱石各寄

一 地別各寄

一 公形像各寄 法名

一 判物各寄

一 道各寄 熱石

一 彫物各寄 熱石

一 法國帳簿各寄 目録

一 徳語系各寄 年紀簿帳

○ 後帳決書及帳簿行と愛解

古今諸書合類大全 卷上

△番帳決書

王春 ○ 西行入美中納言後當 則宗

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

美系 ○ 西行入美中納言後當 貞次

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

清明 ○ 西行入美中納言後當 延房

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

△ 備前國福屋住人於於九と号傳記系

梅月

△栗田に住人山城守と号。諸同費穴の上橋小打之御横迄九一公堂山城尚番乃時は是も上文字と打上文字をけり。伊予大連遠たり。

狸寅

△青江に住人彼中守と号。諸同費月費穴下御小打 伊予遠迄小内又ハ久西成丸もさうく之厚く簡之細く先平山城或一文字に切て丸ぬらぬ。

惣夏

△栗田に後辰林方赤尉是之。諸同費月費穴上橋平へ下りく國友と并長澤小打御同友共御御横下共横心先へ細く諸御底之迄九一馬方内之山城之或へあへり。

涼月

△彼外福屋辰之。諸同費穴の上橋小打平へ下りく御横下共御遠下りあり。山城之或へあへり。

南呂

△吉江に後持辰と号。諸同費穴乃下平へ下りて御横迄内之御方御角之公先山城又ハ御形一文字に切たり。山城之或へあへり。

暮秋

△彼不圓大一文字御横迄辰と号。諸同費穴乃上橋小打春御横迄小打しり。助宗他之三字小打一文字に切たり。山城之或へあへり。

玄英

△彼列後河内守と号。諸同費穴乃上橋小打平へ下りて打之公先之御形一文字に切たり。山城之或へあへり。

陽月

△彼不圓辰門守と号。諸同費穴乃上橋小打平へ下りて打之公先之御形一文字に切たり。山城之或へあへり。

穴の上格小打伊直連式ハ横下位  
内又ハカク丸もろろ平山形又刻  
所もあり

藤月。ホキハ又改出三任 助定

△福屋候法書と号す。後平表同表  
穴乃上格平入りて打 後直連連角  
みりて月乃公海平山形立刺頭

国月書 久四

△栗田口大隅校書と号す。後平表目  
要穴乃上格小打伊横表改出久四  
と打時ハ直連連心細く改出久四  
萬丸一と改丸もろ山形立刺頭

一 清方刑部 四弘 刑部 為貞

番飛之 後直連連角改出久四  
雲上の水化菊ハ山形もろ一打も枝  
菊もあり八級同清也方り

△ 施徳波國定 五 後直連連角改出久四

二月 則四 栗田口右右丸号表林

三月 景四 栗田口長久金子後直連連角改出

五月 四徳 栗田口右近右監と号

七月 宗吉 備前福屋後直連連角改出

九月 延心 備前四福屋後直連連角改出

十月 助則 備前直連連角改出

右六人ノ二月九月内表と執り表也

後直連連角改出久四ハ横下位  
菊乃大と改分中十七長と菊乃大と小  
大小と改乃下小と改也

後直連連角改出久四ハ横下位  
九条内作右改大長二任信也。大文中細と改  
右改大長と改小麻呂と改也。後平表

同要穴乃上格小打伊横表乃標丸と改出  
九条内作公改小改九月と改出。上内作  
燒ハ改出ハ改細く伊横と改出。上内作  
二任信也。右と改改と改改也。何も心の  
かたりと改小同ド

一 大宮中納言の位を以て計す所也又曰  
 一 名字亦て下は位也凡そ終極也  
 一 扱又ハ先を以て扱蓋の如く細く扱也  
 一 何れ下地と他り治不後者扱後大扱又  
 一 与極治不先也又乃以之乃以丁丁者  
 一 多々極と扱不小扱又人亦以之玉と天  
 一 小小極治也扱行り上り上り八子も扱也  
 一 乃金地極治り扱極と多々扱也  
 一 辨又ハ一乃形も扱也扱也  
 一 新治所 下上は一扱に以て扱後者扱  
 一 院治所 元層は九多扱治也  
 一 花園一代扱治乃扱治也忠扱治も  
 一 扱治も扱治も扱治も扱治も扱治も  
 一 扱治も扱治も扱治も扱治も扱治も  
 一 扱治も扱治も扱治も扱治も扱治も

△徳圃同族以才不同大略書載

一 宗近 係一人。伴契 一回行。係二人。父子。夫  
 一 人。一回後。係二人。父子。再後三人。一子戒  
 一 系二人。父子。一回宗。係中三人。伯列小略。  
 一 九列六人。係中一人。肥後義隆也

一 包永 和列三人。平三郎中三郎。一重吉  
 一 係中一人。一恒次。係中二人。妻能治一人。八後之  
 一 大和一人。一光世。係中一人。孫合也。又係中一人

一 包次 和列一人。係中一人。一光世。孫合也。又係中一人  
 一 國弘 相列山内一人。係中一人。孫合也。又係中一人

一 助久 係中一人。一吉家。係中一人。孫合也。又係中一人  
 一 相列一人。肥後一人。一友安。係中一人。孫合也。又係中一人

一 是重 大和一人。一助近。係中一人。孫合也。又係中一人  
 一 有正 係中一人。伯列一人。一有行。伯列一人。孫合也。又係中一人

一 長川 係中一人。孫合也。又係中一人  
 一 一則宗 係中一人。孫合也。又係中一人

一 利光 大和一人。孫合也。又係中一人  
 一 一重利 大和一人。孫合也。又係中一人

一 安次 係中一人。孫合也。又係中一人  
 一 一國分 和列一人。孫合也。又係中一人

一 宗忠 係中一人。孫合也。又係中一人  
 一 一國分 和列一人。孫合也。又係中一人

一 諸國同略  
 一 和列

一為純。越中一人。江守子。一人。西三系。終朝。一為純。越中一人。

一國信。越中一人。和列一人。改宗。越中一人。越中一人。

一國長。和列一人。安藤一人。中流。一友。越中一人。越中一人。

一八西。越中一人。安藤一人。一月山。奧列一人。平。

一恒法。越中一人。一國次。越中一人。下。越中一人。

一國光。栗田口一人。系又。父子。丹波一人。大和一人。相。

一有國。系一人。河内一人。栗田口一人。一龜水。系一人。伯列一人。越中一人。

一國水。系一人。大和一人。一未行。法列二人。和列一人。全代一人。

一弘決。系一人。越中一人。石見一人。一國友。系一人。越中一人。

一則四。栗田口一人。伯列一人。安藤一人。安藤一人。安藤一人。

一國吉。栗田口一人。安藤一人。和三人。伴一人。肥後二人。越中一人。

一久四。栗田口一人。越中一人。越中一人。伯列一人。

一四安。栗田口一人。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一四德。栗田口一人。肥後二人。伯列一人。一四美。系一人。山後一人。上。

一吉光。栗田口一人。因列一人。一安則。大和一人。越中一人。系一人。大和一人。

一安則。大和一人。越中一人。一貞宗。相列一人。安藤一人。大和一人。

一行平。越中一人。肥後一人。越中一人。大和一人。

一信四。系一人。越中一人。大和一人。一包平。越中一人。越中一人。

一友成。越中一人。一册平。越中一人。越中一人。大和一人。

一系光。越中一人。一守忠。越中一人。越中一人。大和一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一守忠。越中一人。越中一人。越中一人。越中一人。

一真守。伯列一人一助包。伯列三人一家次。  
伯中斤山三人。後河國入越中。實は先  
 祖之又と同時に後列の下の指が後者なるは後  
 う子たりた力小大切しうは能く回復加列  
 者物一人ありと云々

△進進物之事

一進進物之事。秘法扱不注きり後國小地乃  
 こと分れて切之所支花多字及流為言り  
 先代乃時礼し重せう之同他注を能及  
 之し又之注を病と自回復及しと云々  
 分別多下一法同諸別記本小記と云々

宗進 系三系  
号ハ源流 在國 系宗也  
子 國宗 後宗  
三帝

吉四 栗田口  
國吉才子 信房 後宗也  
系桂吉 角心 播平國  
安教子

子戒 系四後子  
子源流才子 子院 系列  
初後 信心 後宗  
信房子

國永 系宗  
系才子 定利 系後小  
系才子 助近 後宗或  
産平後平

助包 後宗  
始之 吉包 後宗  
古也 守家 後宗  
始之

助近 後宗  
助近子 包永 系列子  
平云々

新進 系宗  
才子 後列 後宗  
小才子 宗正 後宗  
才子

助後 後宗  
則依子 基近 後宗  
才子 介成 後宗  
成り子

末光 後宗  
才子 永包 後宗  
才子 貞徳 後宗  
才子

言包 後宗  
才子 言徳 後宗  
才子 真守 後宗  
才子

政宗 後宗  
才子 助久 後宗  
才子 友徳 後宗  
才子

成宗 後宗  
才子 行仁 後宗  
才子 士邪 後宗  
才子

心恒 後宗  
才子 助村 後宗  
才子 國生 後宗  
才子

光忠 後宗  
才子 長光 後宗  
才子 真長 後宗  
才子

真光 後宗  
才子 実成 後宗  
才子 友成 後宗  
才子

真吉 後宗  
才子 吉吉 後宗  
才子 元恒 後宗  
才子

久利 後宗  
才子 吉真 後宗  
才子 恒次 後宗  
才子

利延 後宗  
才子 吉永 後宗  
才子 一文 後宗  
才子

葛化 後宗  
才子 是助 後宗  
才子 長光 後宗  
才子

若書 可然物

二



付行 播州種村 義行 吉野同 清真 藤原三王

一第化十二人... 十二人... 打せ... 延和二年癸丑正月十日

△可然物之更

一可然物... 假し... 不出入たり

助則 安則 則助 則常 永包 宗忠

宗祖 家安 國光 介成 高包
包助 在心 実忠 成宗 主家
在行 延正 友安 家忠 助久
系別 康貞 重吉 貞吉 真光
助光 守俊 系安 実守 助重
助真 真守 守家 弘次 行次
頃孝 光重 則光 守次
次暹 吉次 真次 系依
吉房 則依 雲室 系秀
行真 長則 圓長 長則
以上六十人 可然物終

▲新化物之更

一新化... 物も入... と片...

鐘書... 地...

一古今名... 乃時... 依乃... 形也...

基近 助村 助房 信正 寺...

末光 直宗 助茂 則包 正恒...

利恒 宗安 宗正 宗仲 助新...

行真 西達 盛吉 左 安吉...

助近 倫必 了久 助美 國永...

國分寺 志全 志全 志全...

真次 宗室 親次 真次...

手次 生佛 直系 光助 吉氏...

則重 助國 則近 弘重...

永真 信安 近系 利延 吉廣...

長重 吉恒 守道 吉信 宣孝...

安行 國利 成吉 政宗 包安...

恒光 安家 龜山 龜安...

冠落 又務他 瑞他 切從 模女...

小信 三頭 模女 及 房棟...

丸恒 三棟 源信 平法 龜中...

▲地別之名

地 又膚地 村膚 中他 惺子...

佛 湯乞 刑 後 又 係 沸...

直又 礼又 送礼 皆焼 丁子...

▲心形像...

蓮同 渡船 渡船 付維 横下...

蓮蓮 切蓮 蓮 為原 蓮...

上九

多カヤニカタ  
 山形。山形。半山形。並形。圓形  
 一文。片山。片廻。片刺頭  
 半形。刺頭。小角。角。目貫穴

▲刺拍く次

長刀。二筋。梅。除。小。刀。梅  
 連。華。刺。鋒。三。拍  
 揚。拍。渡。摩。折。丸。形。梵。字。  
 馬。鈴。海。龍。冠。栗。柄。丸。柳。籠。不。袖

▲種之次

関。○。山形。山形

大和。○。山形。山形  
 切。通。平。の。拍。模。之。拍。の。拍。也

大和。○。山形。山形  
 切。通。平。の。拍。模。之。拍。の。拍。也

正應永仁元徳正中。建武。成。の。年。号。の。拍。也  
 依。系。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

依。中。系。○。山形。山形  
 大。正。の。拍。也

依。後。系。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

栗。田。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

一。系。拍。系。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

系。信。國。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

越。中。系。○。山形。山形  
 是。と。見。の。と。そ。の。拍。也

鏡のたぶら。 大まらふ作。 丸山にありてその作り 中しすくともあり

鏡のたぶら。 平山にあり 丸山にあり

鏡のたぶら。 丸山にあり

▲物揚之次也。 寶壽。 長方

之。 長方。 越後信國

之。 同信國。 裏方

之。 信國。 以他点丸

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 分中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

之。 信國。 中しすくともあり

大和物三所柄可大和物の色水一柄の如く  
 扱はるるて其の考ある一柄の如く  
 一後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く



△相列の如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

上巻  
 △後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

△後念紙の如く扱はるる如く扱はるる如く  
 一色と云ふは其の如く扱はるる如く扱はるる如く

和泉。留加美四部。一紀列。入麻一流

播磨。安教一流。一丹波。長来一流

後河。為田一流。一近江。官儀志家

三河。二流志家。一志江。岡本。桑

武尾。四流忠武。一信賢。一人

下野。一人。一奥列。桑葉一流

越前。宗光一流。一越中。義弘一流

加賀。友房一流。一石見。盛徳一流

出雲。左永一流。一伯耆。大原安徳源

美作。二人。一但馬。二人

周防。一人。一因防。信真一流

長門。左文字一流。一安藝。三人

河波。氏吉一流。一備前。業宗一流

伴孫。一人。一古佐。一人

淡路。一人。一信濃。一人

越後。二人。一能登。仲次郎西

筑後。三池一流。一豊後。定秀一流

豊前。佐藤治。一肥後。菊池國村

肥前。佐藤治。一薩摩。波平一流

大隅。一人。一君徒。一人

雜郡。真幸。貞徳。赤勘國弘

山城。孫治。一大和。孫治

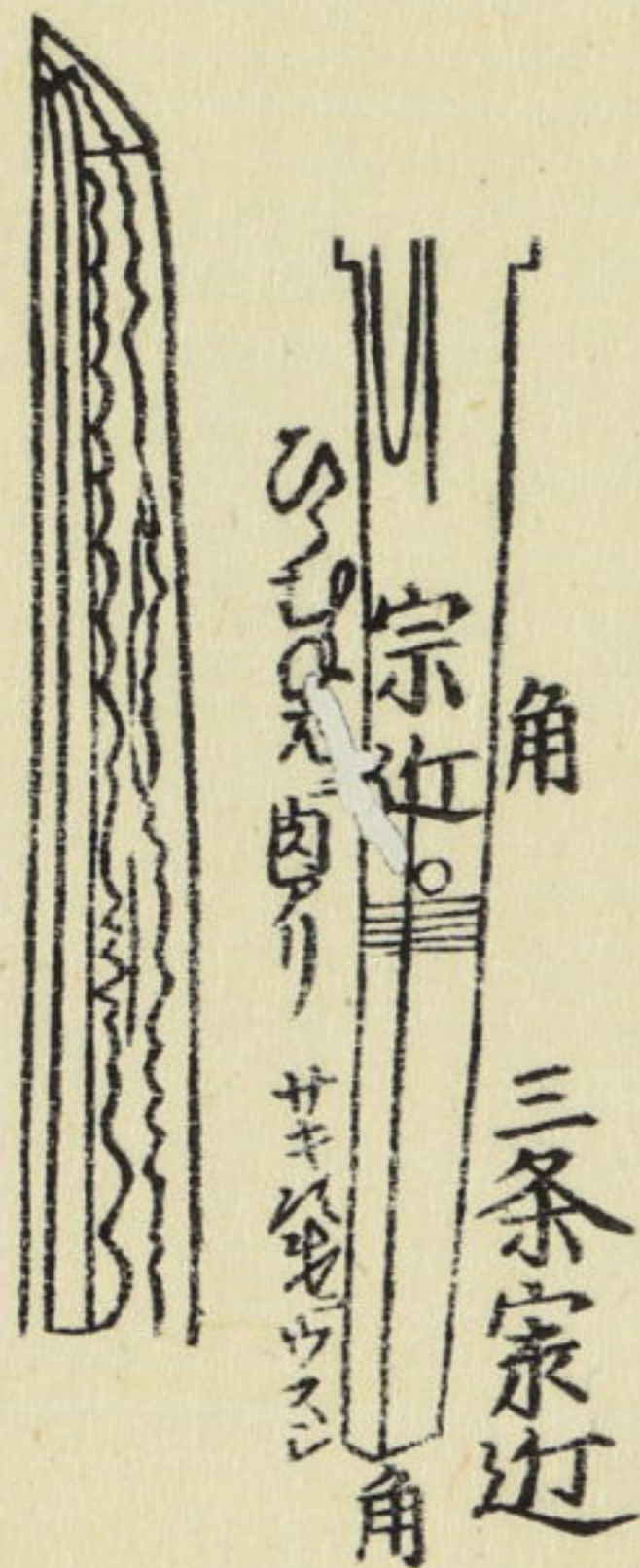
又。依茶。孫治。又。依中。孫治

一國不知。孫治。一代孫治孫治三人

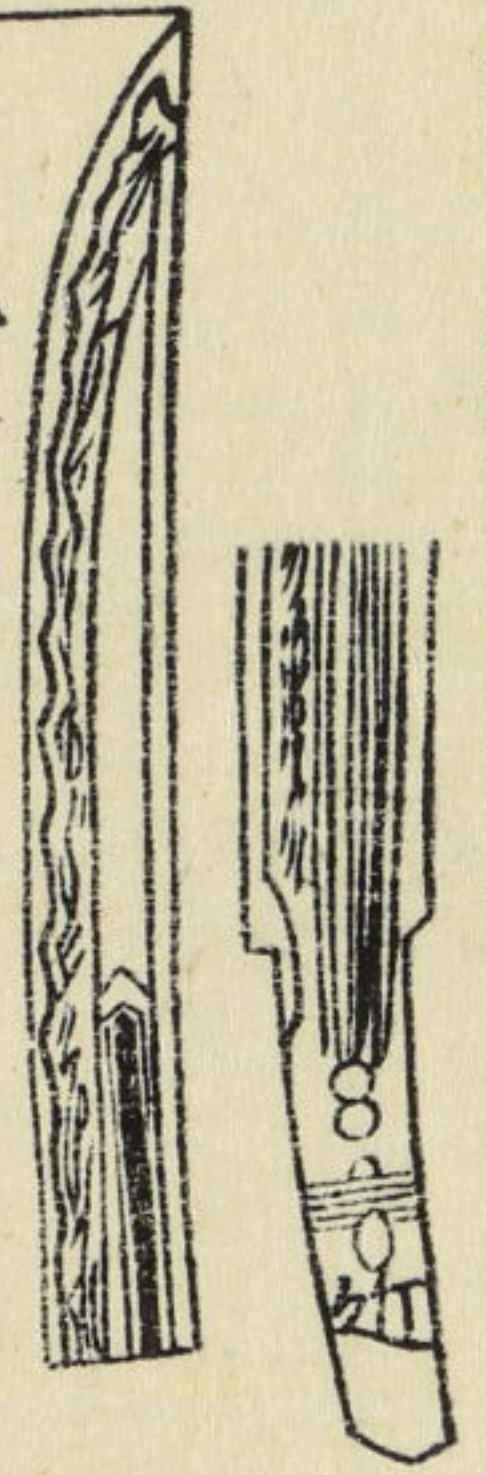
右依國孫治孫治



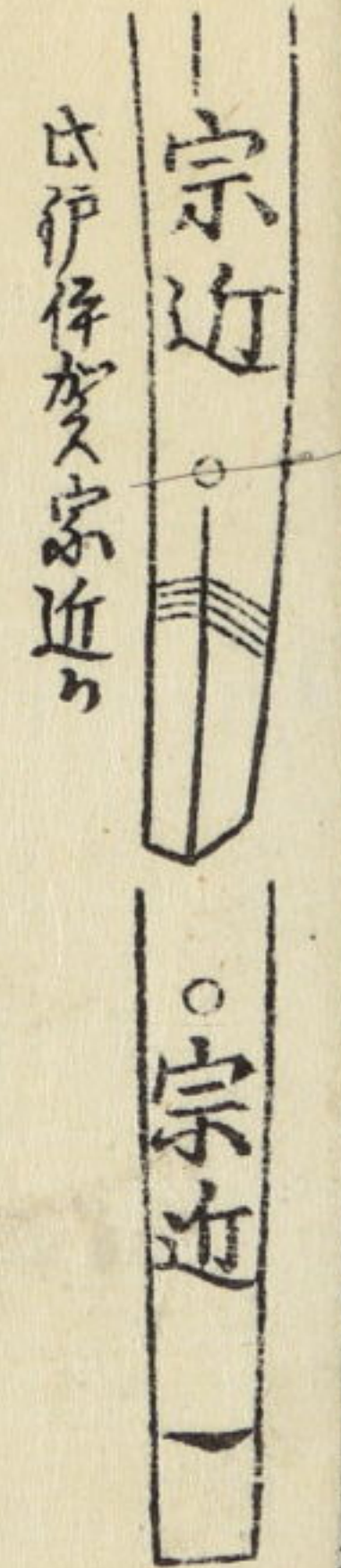
忠をたぐわそくさるそとほかりぬとく  
 小切らりとあり並連伊孫角ゆて肉  
 あり孫乃折枝有ニあるすざと一又肉  
 孫伴有ニありそれ忠乃折枝孫横小  
 平と並連のさるたり



三木ノコカケ宗近  
 一寸又分斗をーささ入角又いささづかぬのいれらる  
 らあり忠乃長と三又四寸あり



丸の耐に判り多きおはぬりさしは他の  
 習へぬさあといふ九折角と云ふは石中赤き  
 やと判り多きと云ふと云ふと云ふは伊孫の  
 宗近  
 角  
 伊孫角小由あり伊日方の松園宗近あり



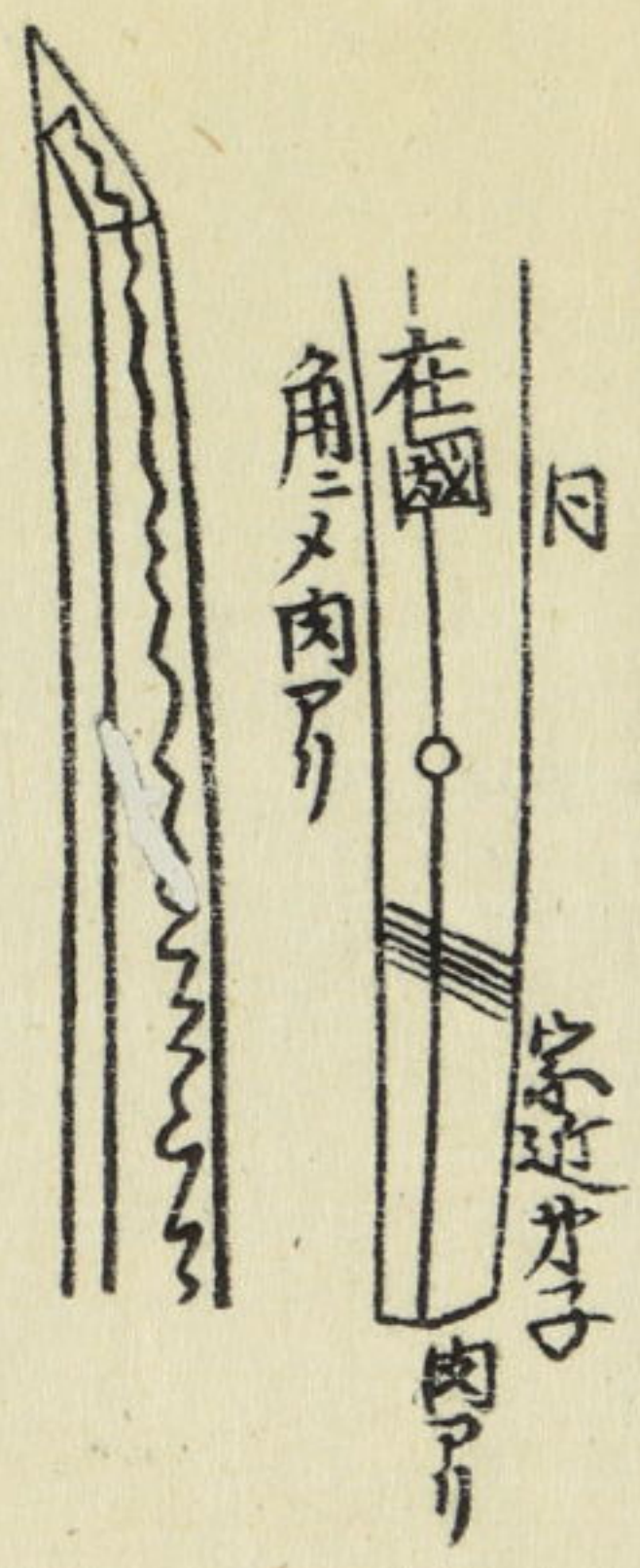
吉家 二条小瓶居が子に或は宗近が  
 かり一若たとり子小瓶居りといふた力  
 乃孫宗をい日ノ孫松園ゆ細やうと  
 地多きまき一小札及ともものぐれ及とも  
 細並及小足といふと極も沸多し病  
 中た力乃孫孫常と宗近うかり孫  
 とのた枝他よりとおたをうやうは  
 忠乃孫の宗近小うく四寸の伊孫の  
 並連九折くともや丸一



在四下と上他宗をがけりあむた力の  
 孫やそく孫多し一孫松園と孫やうと  
 孫ゆ孫地多きやと云ふと云ふと  
 孫一と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと  
 小札及小沸をうくともや丸一



まぐらにたかひの船なり出ずやう  
しりてたかひの船なり出ずやう  
○一条院の平安城の住人永延の  
元禄六年に凡七百六十六年と云



一 兼永 下之上也 兼永乃法在國  
二 兼永 兼永乃法在國  
三 兼永 兼永乃法在國  
○法圓同法永永永三人流別  
和列二人を代りたる

一 國永 下之上也 國永乃法在國  
在國ニ男兼永が身之刀乃と云  
後小徳定利小徳り作し此の習  
たり根根同なりてり志しめあり  
たり根根同なりてり志しめあり

○法圓同法永永永三人流別  
○法圓同法永永永三人流別  
○法圓同法永永永三人流別  
○法圓同法永永永三人流別

兼永永永 國永 角

△粟田口物之系為秘儀

○近來院の住人林守と号す  
元禄六年に凡七百六十六年

○二葉院の住人林守と号す  
元禄六年に凡七百六十六年

○友末 友末乃法在國  
○友末 友末乃法在國

○友末 友末乃法在國  
○友末 友末乃法在國

銘 山城栗田口

久國 必交方之

○故も羽院唯之元唐乃以西栗田口の住人

國安 久西方(山崎)最

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

國法 云安背し

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

有國 後天部

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

國經 必交方之

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

有國 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

國光 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

國久 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

有求 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

有元 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

久吉 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

吉光 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

延光 必強ふと云

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

○田系流法寺天福法栗田口住人(三)

六部と長子(安國)はも頼乃(元)也

則國 天福の比

國吉 天福(栗田)住人(三)

國光 天福(栗田)住人(三)

國延 天福(栗田)住人(三)

吉正 天福(栗田)住人(三)

清長 天福(栗田)住人(三)

吉國 天福(栗田)住人(三)

國秀 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

國定 天福(栗田)住人(三)

心次 天福(栗田)住人(三)

心四 天福(栗田)住人(三)

國吉 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

素長 天福(栗田)住人(三)

銘書 山城 栗田 上 十二



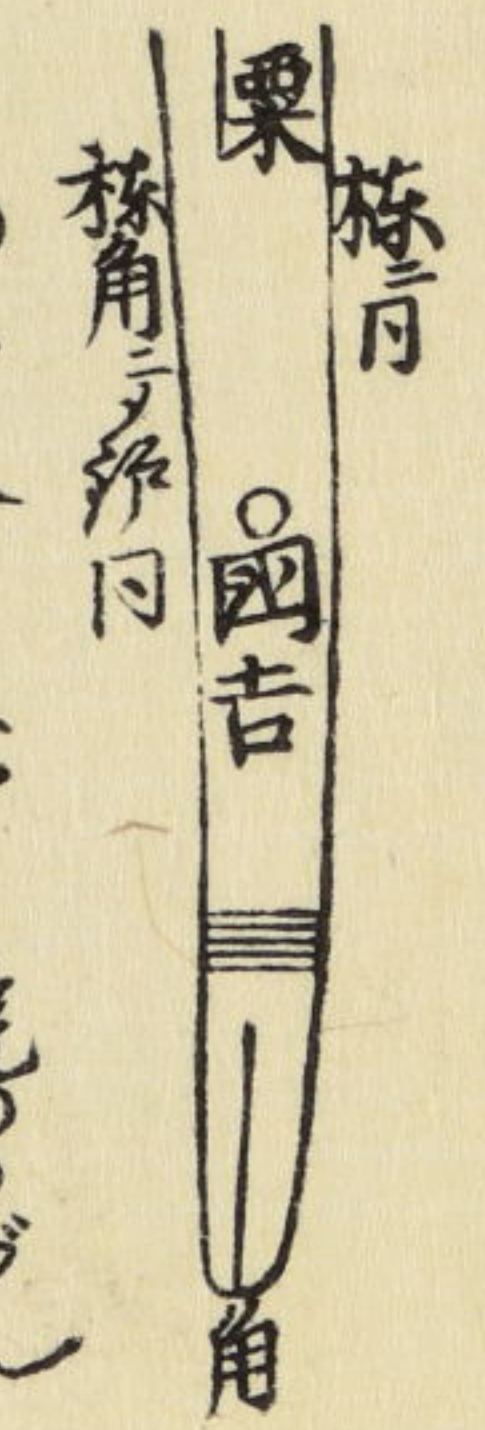
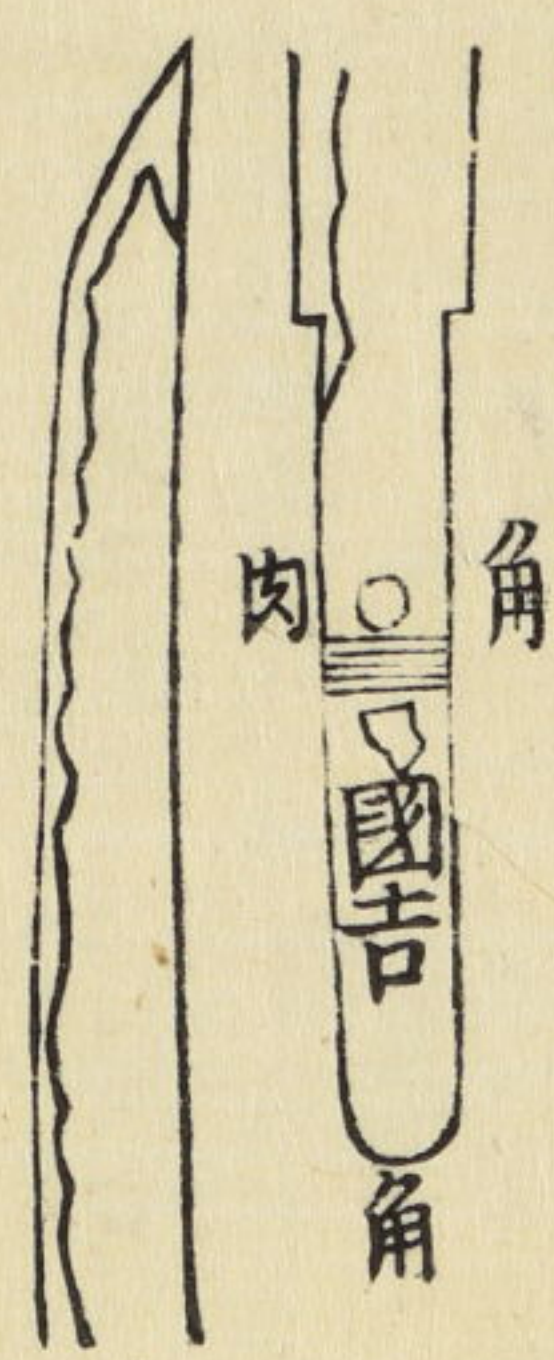
栗吉 則國  
目要丸の上には伊藤下  
中心先小肉あり  
栞角ヲ小肉の尻接下号有る云



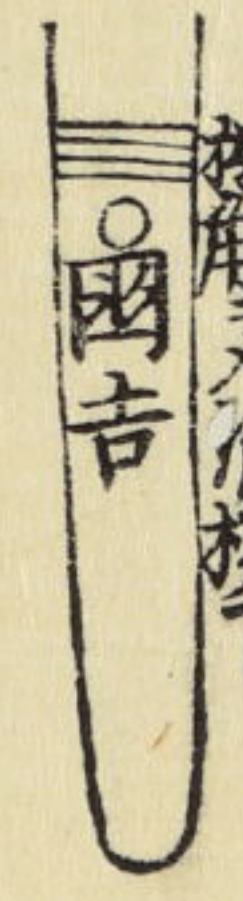
○法蘭西國は三回國友栗田口三人及林前  
後肥後一人宇治三人  
○同後三回利必栗田口三人伯列三人  
但下三回後亦三人と云

一國吉と云は也 天福の法衣を志す  
志乃乃海舟を多く積む人多く廣く  
店あり一振松岡といふところを  
つくりしをいふと云ふもさうと云ふ人  
より及むわきま多し地をいふは也  
一細直取と焼但一出來物には中  
直取ありは他ありありは直取あり  
國友乃ニ直取ありは控常帯あり  
地の底をいふと云ふは是れは  
天目乃と云ふは是れは焼かす  
めと云ふは是れは別あり及はは也  
一沸と多くあり力乃細直取あり

うつり色をわきとせくうりとせし  
焼極とせくくは是れは長目栗吉の下  
小打系乃國吉と云は是れはかりと云

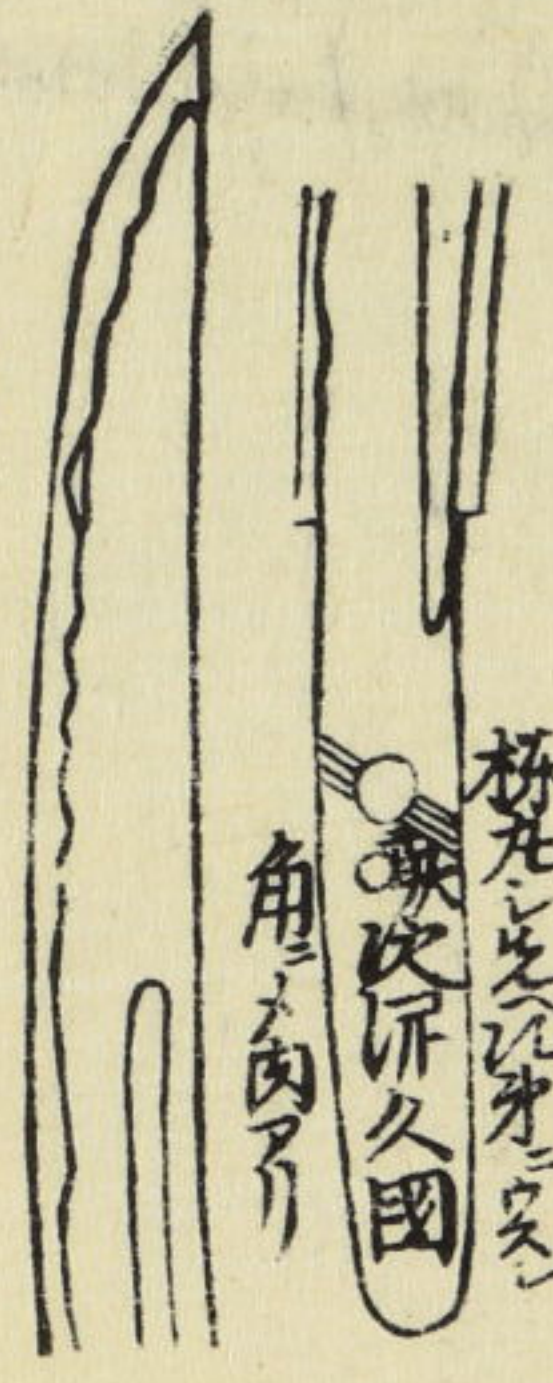


栗吉 栗田口は宇治院のりせ  
栞角ヲ尻接下 栗田口は栗吉と云  
栗吉 栗田口は宇治院のりせ  
栗吉 栗田口は宇治院のりせ

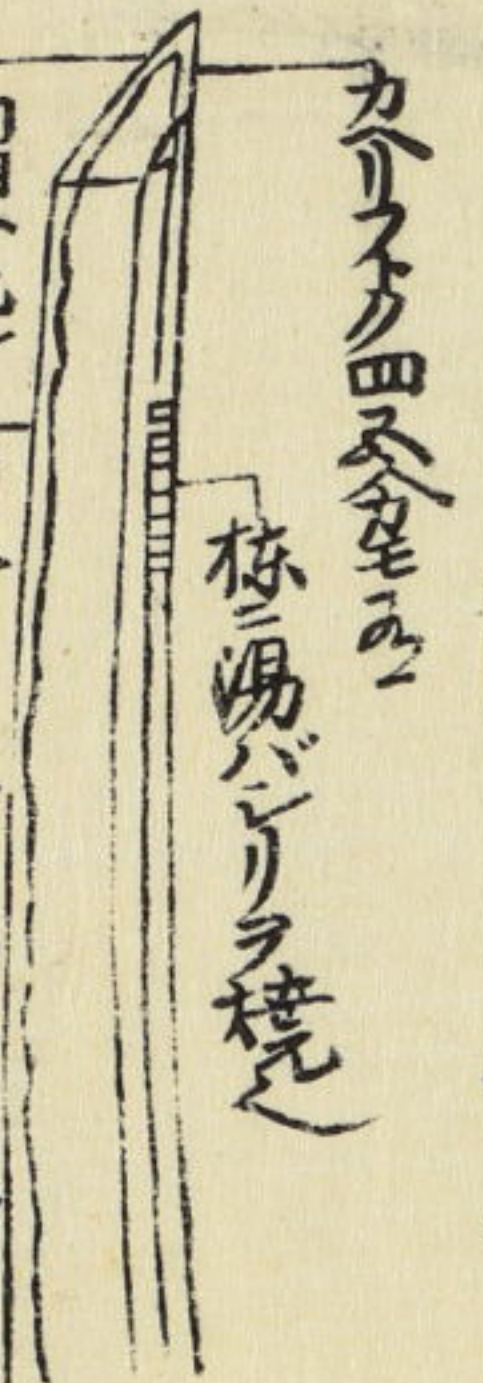


一久國と云は也 元暦の法衣を志す  
志乃乃海舟を多く積む人多く廣く  
店あり一振松岡といふところを  
つくりしをいふと云ふもさうと云ふ人  
より及むわきま多し地をいふは也  
一細直取と焼但一出來物には中  
直取ありは他ありありは直取あり  
國友乃ニ直取ありは控常帯あり  
地の底をいふと云ふは是れは  
天目乃と云ふは是れは焼かす  
めと云ふは是れは別あり及はは也  
一沸と多くあり力乃細直取あり

くび口内を加減とあつしに心付くこと  
 それより物されを落し打替へは  
 を物ふ入りは口内よりぬき白  
 又ふら為水乃どくしより佛を  
 刀の速又と焼くを又國光ふ似たり  
 但し新飯よりいさふより佛りも  
 とうに之を地付と云ふ乃どくしより  
 つくは常より自然焼つめを  
 五平と云ふ乃とよふ國は此なり



久國 小肉

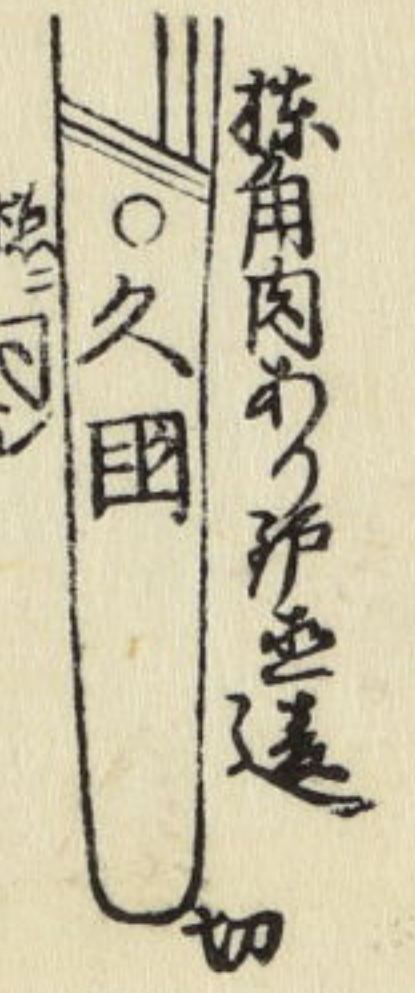


梅湯 小肉アリ 其へうす  
 角二小肉アリ 其へうす  
 帽丸 中分り上六重 刀分り  
 亦は帽子の中敷割りも後佛 足と丸

粟 康長比久國 肉あり

株角 久國 切  
 天福より十七年後

株角 久國 切



○法園 日盛 日園 吉栗 栗田 口三入 お後系 二入  
 茶枝 大和 三入 伴盛 二入 肥後 三入 佐三 二入  
 飯前 二入 佐三 二入 越中 中多 各一入 伯列 二入  
 ○日盛 日久 園栗 田三 入 佐三 二入 下多

國安 中上 他ん 元 磨比 飯三 乃 刀 筋  
 不そく 長く 信多 切先 筋 乃 あり  
 磨も 紅 あり 振松 同 筋 乃 あり 地 乃  
 黒く 青く 細 直 又 と 焼 又 乃 あり 小 堅  
 く 刃 乃 上 白く 刀 乃 地 乃 又 乃 あり  
 刀 小 切 乃 刀 三 株 五 中 二 角 之 佛 又  
 一 筋 乃 多 小 打 國 安 山 崎 同 費 の上  
 小 打 國 費 六 の上 筋 乃 枝 益 乃

栲角ヲ執後下又國又テ戒也終リ

回安

○徳國月詔言國安栗田日三人依赤一人

○徳國月詔言國安栗田日三人依赤一人

一 國境中上他 天福の山口即ち赤を乃乃  
まろく云安ふ似たり船栲月地を云一  
車又と焼地を云ふ云ん云云云云似たり  
右刀も刀も先乃又と焼地はひり刀ハ二株  
云乃栲ひろ一船ハ車遠路ハ月貴之の  
邊終る云云云云

栲角ヲ執後下

栗田音

栲角ニふ肉あり船月

國清

○徳國月詔言國境栗田日三人依赤一人

一 有國 中之上他 同此之友又即右刀の  
邊ありそくもくせがら一云安ふ似たり船  
同されそく一云云云云云但一栲月云云  
云なり依中物乃云云云云地云云云云  
云云地云云一細並又と焼又云云云云

まろくあり船栲下云云栲國ハあり

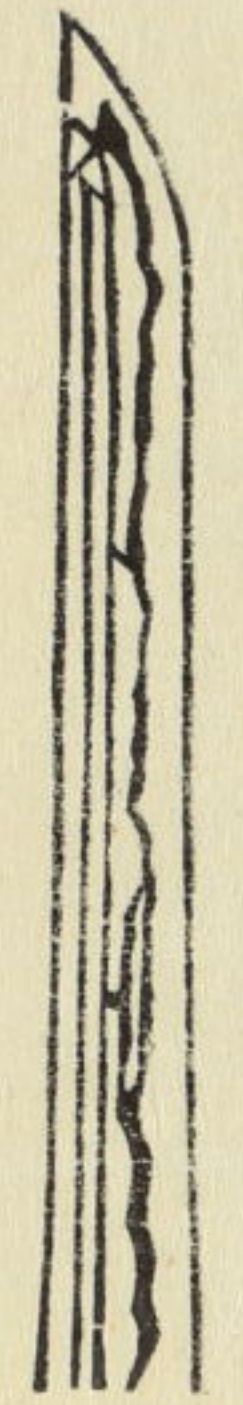
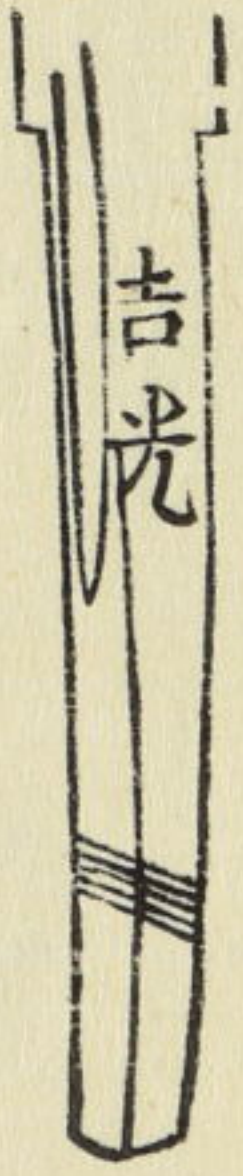
○栲形押取不見

○徳國月詔言有赤三人河内三人栗田  
日三人依赤一人

一 國境 中之上他 弘安乃云云乃乃  
栗田日詔言日同下船栲月似赤細  
やうあり存れらるる云云地云云云云  
上まろく一細並又と焼又云云云云  
あり船と栗田押取お列へ下らるる  
以あて見しより右刀の傍なり

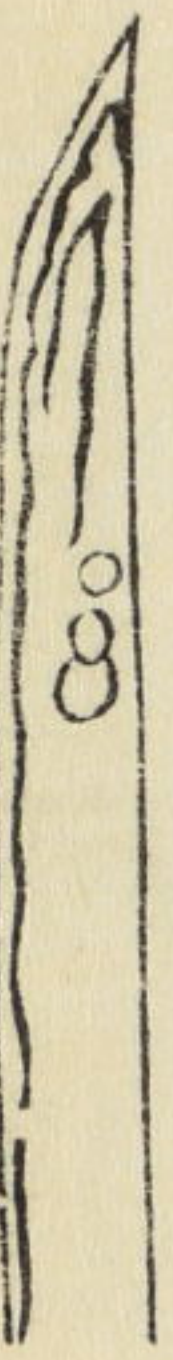
一 土口先 上他 弘安乃云云乃乃  
乃安分そく船とそくせがら一云云切先  
色右刀乃お急ふつとく為常くは他ハ  
栲月乃船ありと云云又乃と上り地ハ  
中分そくハ板同半分より栲乃方ハ栲見  
上まろく出牙わハ板同乃もくもく板  
目乃船乃内小こり云云乃云云あり云云  
又梨層あり船も云云地云云云云云  
て底小い赤云云細並又云云ハ細の  
と焼右刀乃云云地存る云云佛あり云云  
一 云云分二云云あり又云云云云云

一、此他乃ち刀のまゝありたり刀乃ち海へ自  
然落れぬもあつた大畷なきことありて  
先へ何れかかゝりて尖る小他はしやうと  
る山ありあり三株又唐株もろろ又  
乃ち又胖弁せや丸る小他はしやうと  
色又小少くらしと細たやうに焼て先  
乃ちはくもあまう小焼し又とやうぬ先  
小他はしやうと丸る小他はしやうと  
とこかゝりてくもく焼てしやうと  
やうとありてしやうとがぬやうにあり  
とそこのころふちやうとくやうと  
いやうとありてしやうとにありて焼  
あり忠乃長とくすはありて海  
を他りまゝすはあり



吉光

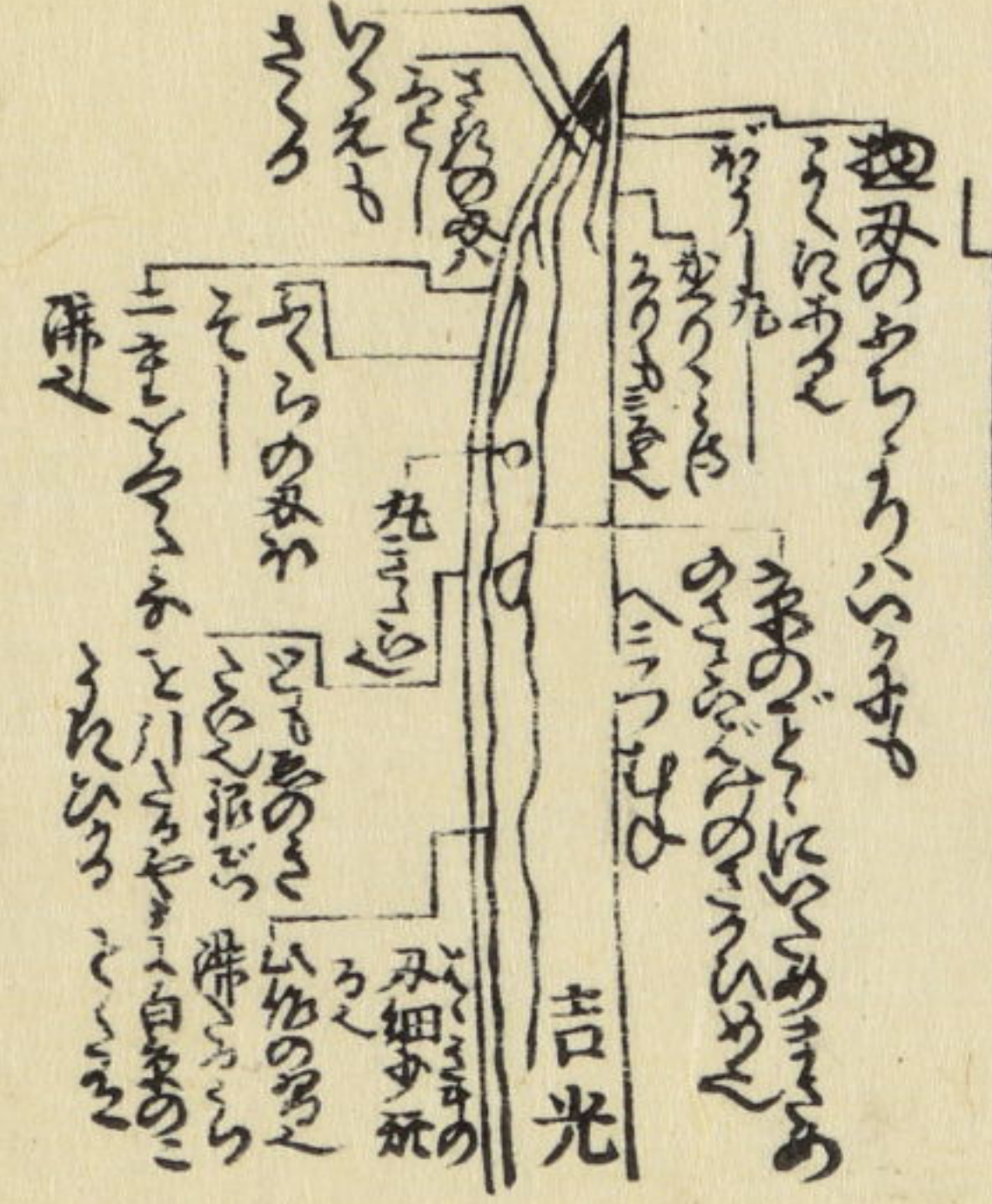
○吉光



吉光

角

○吉光



○徳圃同流言吉光要番口一人因徳圃  
山城三人一人をよ  
一國徳とて他正流乃は古流門院の流  
うち刀乃あや細目小長く切先  
ほくまやうたり焼やうひろく唐兵  
振正目ありて地ふさく地も長  
たふさく刀ありて焼やうと一又  
針切ど乱又小焼あり又ふらけいど







△系物の大御方力のあけりてくゝとの  
 本末始末一俣ありて店中切先中之  
 俣一松岡地とありてそのまゝ地金  
 ふりあつた味と女ありあつたり  
 佛より一札あり俣あつたのまゝと  
 入つて大平まゝある佛とありて  
 並又ありてありてまゝと孫の俣  
 しろ成徳の例たり梵宗のあつた  
 ぶつりありて割るまゝと一俣の  
 まゝとありてありてありてあり  
 とありて忠天力なり本同貫穴の  
 刀なりありて同貫穴下にありて打  
 の横下横下横下横下横下横下横下  
 本平あり忠天力なり平山松林大略  
 角ありて刀のありてありてあり

△平安城物之系も秘候

ナカミツ 本之右部と号す流同貫穴の二俣  
 長光 并て平中より出た横下あり  
 聖徳 流小松院意承あり

中長 三郎と号す 定家 長光の子孫なり  
 平横下力 西同貫穴の

刀大さの松丸一  
 ○俣花堂流永事次  
 女子 先長鬼女  
 上三打流聖徳  
 俣丸を承り

長吉 横下長流平安城位長吉と并  
 ○俣柏原院明徳文徳永正乃流

吉永 長吉長吉子あり有た考入なり  
 名と有と云

吉則 時代長吉と同じ長流  
 平安城位 吉則と并

女子 三條同時代  
 同流

吉廣 ○俣桑原流法寺時代吉則と同じ  
 長流平安城位吉廣と并

吉次 時代上三同  
 流平安城位  
 吉次と并

重次 時代上三同  
 流平安城位  
 吉次と并

長光 本之右部と号す流同貫穴の二俣  
 俣丸を承り  
 小松又の中札と名流是ありて佛  
 より俣流一俣ありてありてあり

長光 角

光長 狹下と伝 平安城を刀の姿

防廣くさや地を白めにぬきさや  
車又のぶれもさやうしぬくうり  
ト？ 劍梵さやうさやうさや  
一 飾ちりく三糸抱くぬしりぬ  
服物とまぬむひらさるぬを燧吉  
初吉房吉次等あり

近角ノ御模云元亨三ノ元亨  
平安城住光長 角  
虎笹入る和及尾徳をさる

平安城住光長  
肉あり  
毛より下公角  
毛より下公角

一 長吉 又まきあさ長き三糸云  
長光房孫と糸為さる

平安城 長吉住  
角

一 吉初 時代長吉と伝 糸為さる

三糸吉則  
角

齒小肉アリ齒布多々上下分志  
三糸吉則泉國住  
角

おまね三糸九折を武に似て根が  
おまね多折く糸云の比もま  
がし丸く入りしりしり中

地をさやぬきさや  
ちて地やふかたさ  
一 双ちちちえとて版  
く糸佛さう又佛さう  
おまねのてにさ  
おまねさるはさる

正宗 達磨を刀乃安系林と好む  
 地を白ちふぬと云ふ一水乳又その  
 ざらと焼く沸ありがし一乳一ひら  
 ぬとくよりやうる忠林尤く達磨  
 又横河ふもより後ハ二宮正乃安ま  
 たり△は達磨正系系報治の国  
 の系系告のめんがす本ま乃るに但  
 ころんす  
 ○後醍醐天皇は山崎國作人安世の法  
 号より元禄六年と三百九十年



正光 正河津をかり享以而入乃  
 号す系後小路を磨入乃ま光が  
 子よふなり



正光 系達ナカ子

△山城回後小路物系系松侯

永昌 昌河代昌他打師振系表同表  
 乃上三條と打振おまに船治

定利 永昌のひと後小路志而  
 ○系山院文永乃

女子 定家 定利の子  
 永仁の法

女子 定家 定利の子  
 永仁の法

忠家 定家の子  
 延文の法

求行 永昌の子  
 ○永昌の子  
 表同表  
 信三條と打  
 振師

定利 又下上他 永昌の法後山系系  
 志乃乃系系乃不似より及るく信度  
 一席中振振固地を白めぬくゆ  
 煥とやうるさたりかか系系  
 小見より切先中系本一尺なるの



國行 國長子。香山院法皇女。文惠の女。  
系來太師と号。居仁より廿二年。板

國後 國行子。伏見院法皇女。文惠の女。  
元禄六年と。田百又年。二

國行 日

國末 日

女子

弘村 振中初  
振中初  
又肥後國三田

國村

末國次 乃小治  
大治之正孫  
光の院居

末國秀 國次子

末貞光 日

秀次 國秀子

末國次 振中初

女子

女子

末國長 必末子孫  
○花を院法皇女  
比持津中傳佐  
中傳來と年元  
禄六年と三百半  
一年あり

末國安 必末子孫

末國長

末國安

守弘

末國安

末國長

末國安

末國長

末國安

末國長

末國安

末國長

末國安

末國後 伏見院法皇女。文惠の女。  
又夫ふ文保元。文惠の女。  
の比。西の山。文惠の女。  
より廿六年。後

了戒 必末子孫

國盛 國後子。必末子孫

光包 國盛子。必末子孫

國久 必末子孫

了久信 光包院

信國 必末子孫

信貞 必末子孫

信光 日

信信 必末子孫

信國 必末子孫

信貞 必末子孫

信光 日

信信 必末子孫

信國 必末子孫

信貞 必末子孫

信光 日

信信 必末子孫

信國 必末子孫

信貞 必末子孫

信光 日

信信 必末子孫

信國 必末子孫

信貞 必末子孫

信光 日

信信 必末子孫

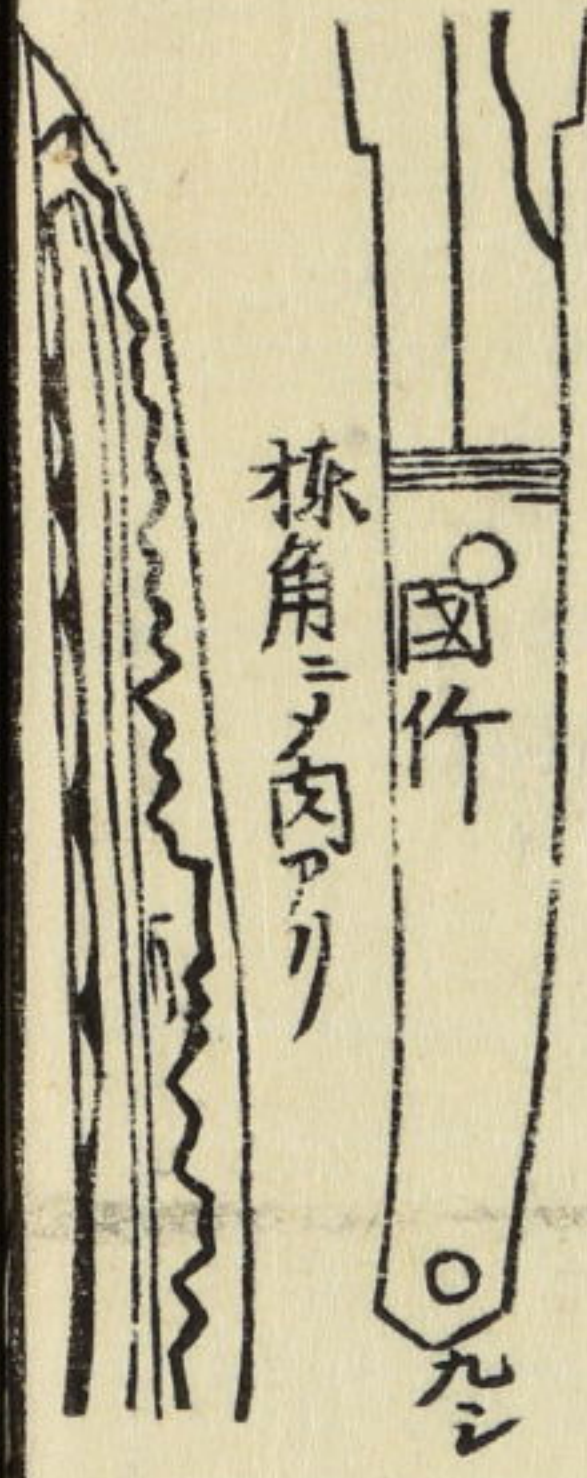
信國 必末子孫

信貞 必末子孫

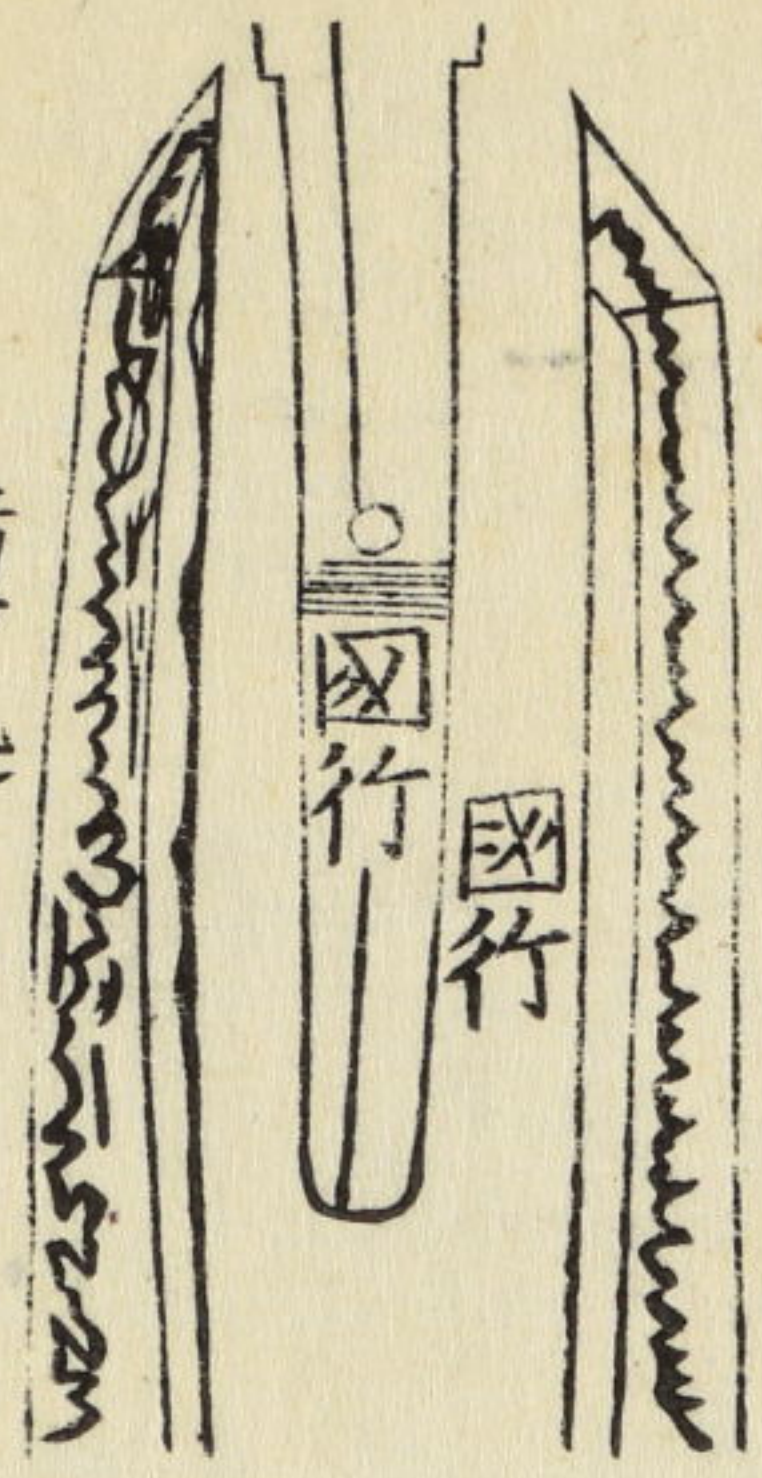
金書

名書 山城來之類 上七九

國行 中之こ能 正元文意乃以未之節之  
 刀乃獨及之于一六兩極どかく 席中切せんも  
 中之振松月之海やうし能之底馬のひま  
 く尺 上よふをたさるる又い膝がひり  
 く焼出 一七徳が二尺分乳ぬとやまて  
 上への廣直又ふ一二寸がうり又いぬがけ  
 魚とくきと焼入り又ふらういぬを常  
 やうに常常かり又ふらうりわくやう  
 入てきるうく沸よりゆりくやう  
 沸かり切先乃肉と直又ふやく捺子  
 湯走乃ぬれもろ二層又ふいかあず  
 湯走をろ。私言あふた沸出来持子  
 あり忠乃ひひに肉液あふせとく移さ  
 と先へいぬれやうふらうし捺もろこも  
 ぬし沸の横縁の二字國行は心國行  
 あるもろ大ぬれぬいぬれを刀の細く長く  
 ぬすむてぬ出来也



○国行  
 角ニ肉アリ 捺角ニ

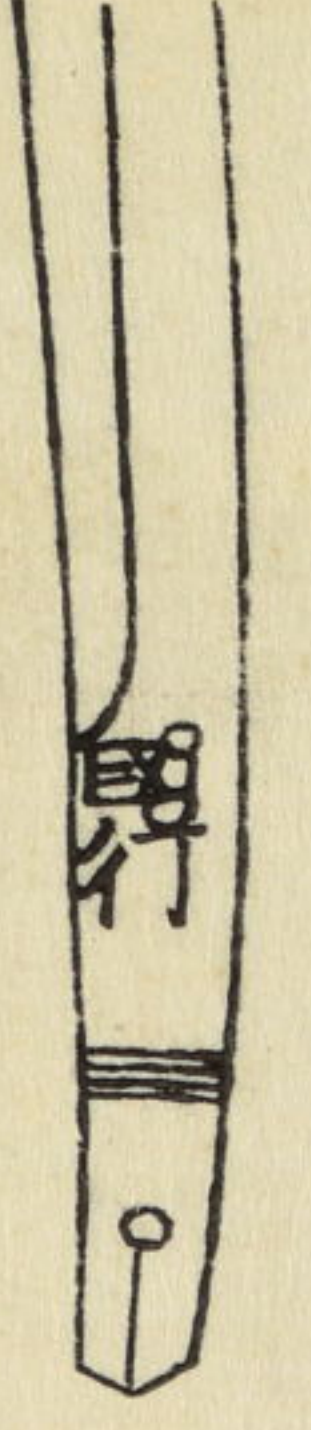


○国行  
 齒少丸 捺角ニ

此を刀細川の國行物と申す丁より生るハ  
 中札の刃切先つまらぬ刃なり



○国行  
 捺角ニ肉アリ 捺角ニ







山崎末ノ類 七二



未國俊。

未國俊 未國俊



近角ノ江邊中堂國俊ト未字不妻

未。來源國俊 註持角

文保元年五月日持長矢目あり金星云

未 未國俊 永仁四年十一月廿者

持角ノ小内あり伊豆邊

持角ニノ伊豆

未國俊

源。未國俊

一國光 中化 元龜の法未給忠を乃  
伊國俊不知り細く唐中切先中

まのあめく化能松岡地がのやうく化能  
えり地を言ふく赤一乳又小下子と焼  
る時と乳又の先とよはるれりあう  
橋中と化能く先のぬのぬの祖又乳小  
國の切先乃内がく一のありとや一平  
め小やうぬままきく足してそ内化能の  
りくまの事化り能とれす祖又  
親まのそ心者一口傳おのく垂ぬのをカ  
と刀のありのけく化能の化能の化能  
垂ぬぬれまのけく燒沸ぬぬくこて  
わく地おまきじくまぬ乃上げぬぬ  
一やうく化能の化能の化能の化能の  
足してり垂ぬ乃ま刀の化能の燒さけ  
びりて化能の化能の化能の化能の化能  
親のりも化能の化能の化能の化能の  
く燒下りり地金れまのけくわ  
まぬぬてりり乳又乃カは能小粘と  
入地地ぬぬもぬぬの化能の化能の  
ぬぬ化能ぬぬの化能の化能の化能の  
うわたり又りり化能ぬぬの化能の  
あく位ぬぬとまきりぬぬの化能の

山崎末ノ類 七二

「聖九」 聖の孫角中て肉  
「梅」 忠の孫角中て肉  
「梅」 忠の孫角中て肉  
「梅」 忠の孫角中て肉

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光



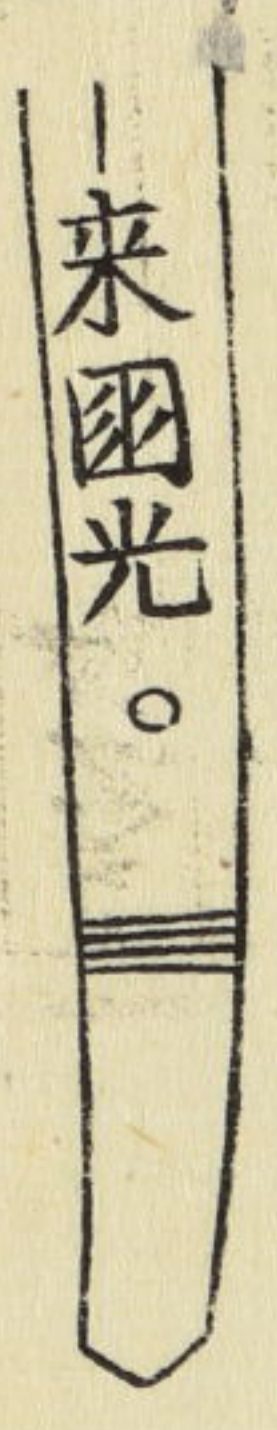
角 小肉のついで  
来国光 角

。建武三年十月

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光



「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光  
「来国光」 来国光

齒七角

来園次。

此柄小丸又焼之字樣園房三徳勝三よりあり  
園秀子又焼之字樣也

柄角ニテ平横下並遠平若く返  
来。来園次

来。来園次

此後も母も此  
入るる上とす  
金一と云なり

来園次。

平丸

一 園長 下也 正和乃法中徳来と号す  
園後乃骨子之志乃乃所修成少ひうく  
こゝどおしせづく他之能松同席中地  
ろく馬くあしめかりかかえあけしり  
大勝並双とやく小丸又とやくのれ丸  
乃とやくと並双乃志乃乃園乃の不  
出来あふに似たり地びしと及し双と  
是くと小なまると他之忠横平

株内来園長と打

園長。



京都佳倉園長 角  
株角ニテ小肉平平日

一 光包 下上他 延考乃法戸津来又外  
乃乃所さしあやうに他も大勝並  
能之三株も之能松目いふ色細やうや  
地之産らあめあんとそとまはたやう  
小上小あつたをま並双とやくあふれ  
又の形ももまわし乃乃法園後ひり  
他よりあまのけりひりたよりのと  
まり本乃枝とれさたころがとくにや  
ささひり又云小丸又のれ丸と焼刀の  
彼あさだのより乃とく小焼るもの  
園後が骨子小なると信成の志乃乃骨  
子とあり彼あさだ小焼ははま信方  
登り一園後小信成ははま信乃年号と

なりち力どは他小いまごんず中堂本  
 へ力どなりとまご忠持角並並也とり  
 先月山平一銘ハ一字之ぬ分の銘  
 ありと来ウ一おれたかひなりと来  
 小尺くとり



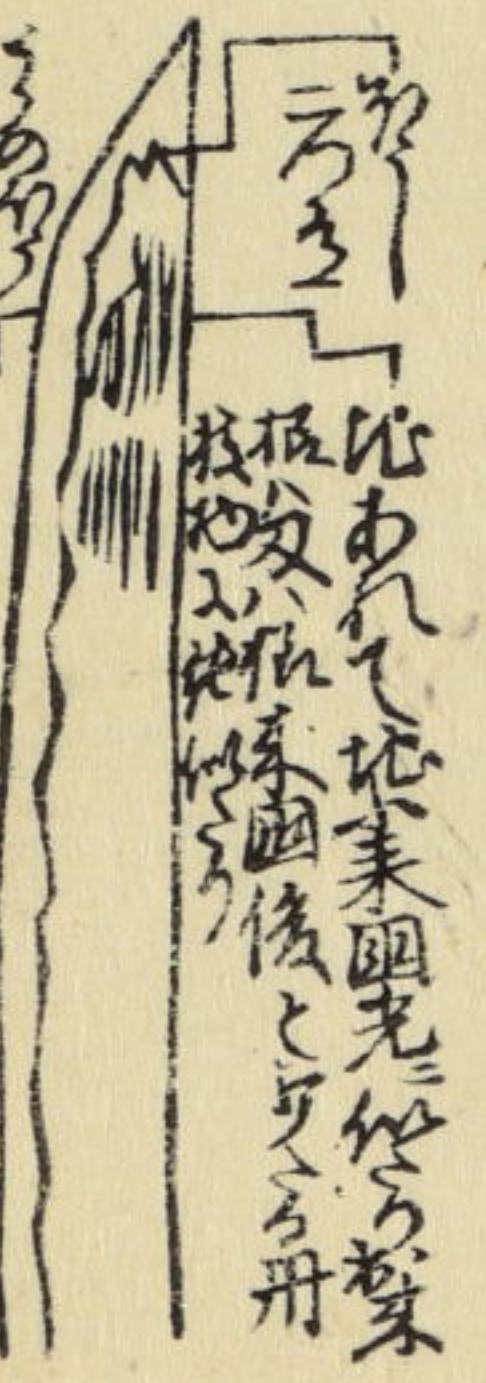
角ニ小内ありす長八角之  
 光包  
袋号ハ水 中堂本也

一 ヤツ 中他 送考ハ法を刀乃あや  
 けそく結たうしほを並又小尺小鏡  
 へり能極目めてこ海やうありと  
 席中地不湯うりありとこは他子  
 限りし所あり又ハ勝本と小札小糖  
 て係系系定たしれこく上ハ並  
 又と極地とハあり又色まめ小とあり  
 こくまわり極どかじりち力多し

併るこくこゆ之國後うつた又子  
 左云注を極小入りり久佐が他と  
 極小尺と銘と并し所右刀多し  
 又子乃るあり極乃んせ知るや  
 似り極と銘乃んせつひ思乃  
 又く並以下小替らありしと上乃  
 乃やう又ありし久佐乃他と  
 ハ又ありとろく極と銘と  
 又又子乃小極あり極乃上多あり  
 忠乃形像國後小印

角ハ 尺  
 了戒

茶  
 了戒  
 持用ニハ作元法二年十月十日とす



此あはれ地兼國光  
 極小尺と銘と并し  
 又又子乃小極あり極乃上多あり  
 忠乃形像國後小印

角二内  
○了哉且能作 角

了久信 了戒がふたり光の俊房  
乃成之平安城小住 系号ハ系ト名

角  
了久信。

角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角

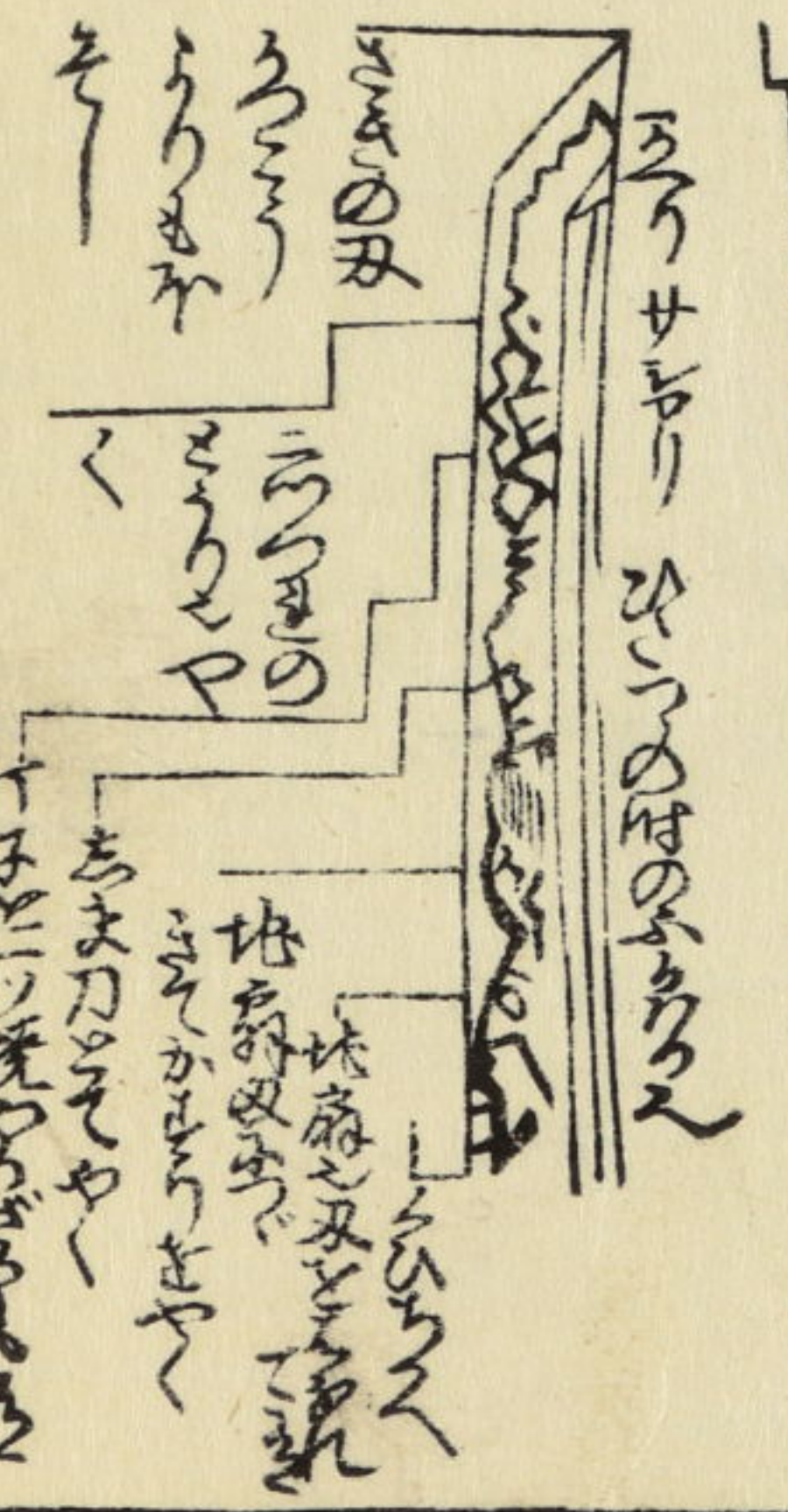
了久信 了戒がふたり光の俊房  
乃成之平安城小住 系号ハ系ト名  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角

了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角  
了久信。 角

了久信。 角

了久信。 角

了久信。 角

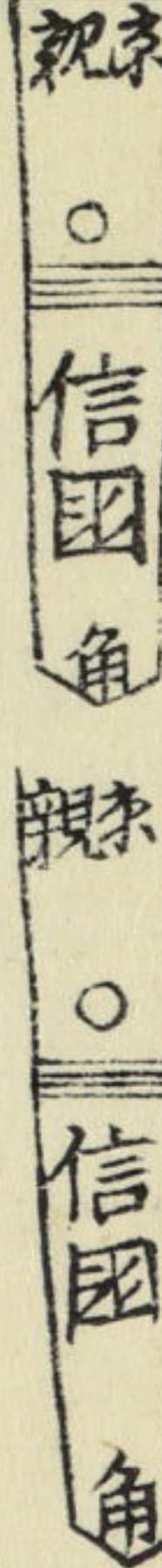


六部より小倉のりおまゝより移入るハ  
写乃男代りて見ゆ

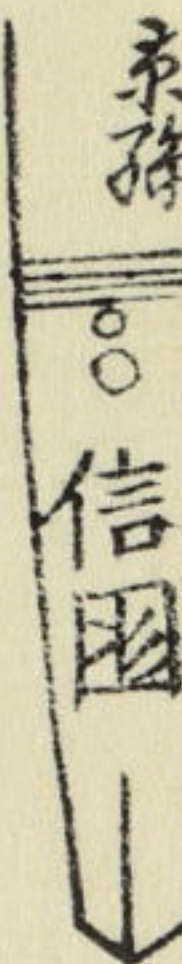
栲角ニ小肉あり同  
貞隆の此の之



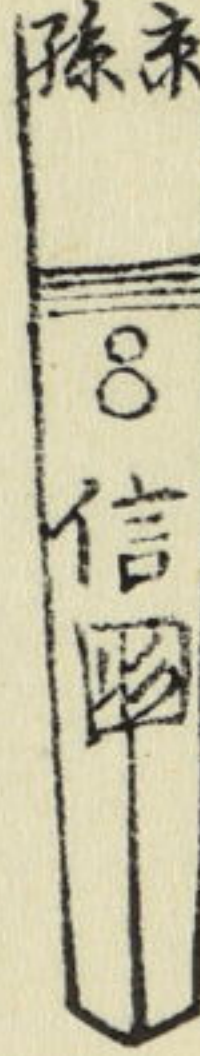
栲肉あり同  
貞隆の此の之



栲角ニ小肉あり同

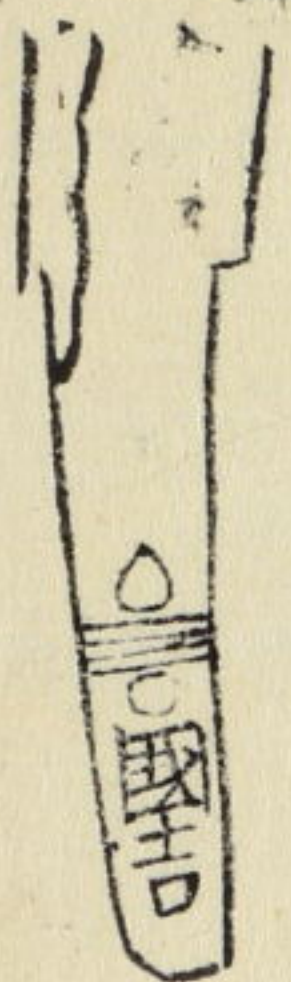


栲角ニ小肉あり同



一 國吉

私考曰  
系來のえ記シカ振のる國行ハ  
下まで國吉不見ありえ記ハ曆仁比  
云



一 國吉

私考

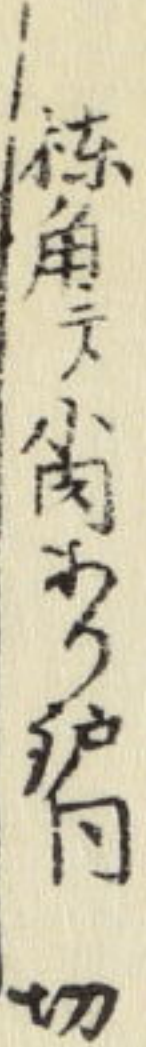
系來ハ一ハ系と号すハ  
吉ヨリ六世ニ系安ミキニハ曆仁比



栲角ニ小肉あり  
國行ニ倂リ  
百三十五

栲角ニ小肉あり平安城住ハ為國吉莫ナ

私考曰  
曆仁比四十二年



一 來國真

來國後ハ股智リノ才

栲角ニ小肉あり



一 國來



栲角ニ小肉あり

山城來ノ類

一 未困殊 系忌小不見

京 未困殊。

栞角にて所日

一 月未 系忌小不見但困未

親 栞角にて肉あり所下

。○。○。未 角

一 未行 系忌小不見

未行 。

永観二年二月一日

一 負永 兼縁 字負永 系忌不見

系 負永。

一 大秦 兼安 大祭 系忌不見

大秦 大祭 系忌

一 系困久 子久 係才之と云 系忌

子戒り子久係才親之系忌 合を  
お考少一 心知乃以之 子久係才親之

栞角にて小肉あり久信才

系 未困父

一 時信 系忌不見

三 時信 栞之 。

栞肉あり

一 長吉 平安城 栞之 系忌 長吉

吉永乃親子之いままに長吉吉長乃  
親子ありす故。別ニとて出ニ曰夫お  
考之

吉永親之

京都住人菅京長吉

栞角にて所下 曆三年十二月日

一 吉長

栞角にて所下 長吉あり

吉長作 角ニ肉

元坪年中の事





金書

△大和物は大狹路の目貫穴乃と下等  
 西帯裏小打狹路の定らざる他は  
 小打同他物も或は狹路送志の狹路  
 蓋切直送志も中先拵取物に  
 小他と小打ちと不同之粟田口は此  
 小一様なる中物一併して之を物に國の  
 字一様なり所も皆横下横狹之何  
 事也小切先の中半後二の切先中切  
 先も三の口物小云保昌の所なり中  
 切先も三の口物一併して之を物に國の  
 同古れを祖として書乃我小並に  
 法紀有りけ書い系並と以て例と  
 之の故を並に書い系並と以て例と  
 安城と坊の天玉と云に志して大和  
 狹路乃系並小狹路と云これと終

一 天國 天國の所なる大玉  
 乃法大和玉と云人 元禄六年と云 乃刀  
 乃法狹路板目いれを細やれ地を  
 さへありそこれと云の心は此の所  
 ひ所より美破乃と云り狹路も湯  
 了は此の地を云々反併多一切を法  
 するは燒つる小孔乃其燒入る

狹路常なりぬれ此を云々座より太  
 刀をそく落ひり一及乃と云れを白く  
 雲乃と云一〇日本狹路云元祖一狹路  
 一 天産 終乃と云物 文武天皇 唐字 天玉  
 太刀乃其落ひり一及乃と云れ  
 自練れるにありたり刀を、此狹路  
 目より此を練れ、落ひり一及乃と云  
 一 かくく燒切 太刀の三寸許り  
 ちりくくと尋常小少くあらしく、丸  
 又乃送是、そく燒切を、乃燒切り  
 とや、やそく燒く、横をれ肉、燒切  
 此れ、や、も、之、刀、地、老、り、こ、ま、め  
 さ、あり、又、老、り、く、い、れ、る、の、こ、ま、め、地、を  
 あ、ど、く、是、乃、を、そ、く、燒、切、り、は、も、ま、小、丸  
 ゆ、い、ま、さ、ふ、や、い、ろ、あ、る、を、古、代、の、小  
 小、丸、狹、路、中、の、ま、か、さ、と、い、ふ、こ、も、あ、れ  
 其、後、中、の、ま、か、さ、と、い、ふ、別、之、狹、路、乃、位、と  
 手、の、狹、路、あ、ら、う、と、い、ふ、如、又、乃、上、より、り  
 小、丸、乃、を、そ、く、燒、切、り、は、も、ま、小、丸、  
 肉、中、の、ま、か、さ、と、い、ふ、別、之、狹、路、乃、位、と  
 云、ん、と、い、ふ、如、又、乃、上、より、り、平

大和物

大和物

乃やまらうのくおまをいつらあても  
きく心先行山乃心あまのののこ  
くゆもへかきう木さだ乃角と丸り  
うやうあうも有り

角小肉のり伊達  
○天庄

友光 ま下と他文武乃道す日傑次  
刀乃筋をれり強彦くま一振極同  
いたもへばやくのく一小丸又と焼  
練り成やろく焼おし抽打乃筋り  
廣又あり又りて並及も焼之焼又を  
カ一まき一振古に右さうに足天  
圓天座りへちちり形とまり

安判中上 一条院中より永延比  
右刀筋より一ひのり振乃筋さう小  
まやへ地まきく上うにやうにまし  
又まきめあて上てをやうに白  
さへいりえくとまに抽れよにま  
乃をて並へるこくまきく上白く

まにとまりの筋又まきく常  
一行四續下上 一条院中より親  
乃法之左刀乃筋をろくく筋り筋  
く振まきく振極同地ま白め筋り  
振ふかへち細連又へ小丸又もまき  
のまれ礼又ゆも焼沸ま又又思一丸  
振体りま後乃平あまのり二ま  
さう小打あり

△敵麻抽乃大新真乃ちうと去刀  
極おと切らうま子平院ふり物の  
上まあのを介の大略を級お削と  
ゆりの筋の先まりく振ま下とま  
むりりれ中心乃筋縁の振まき  
く一厚一筋のまきありま又か振  
筋りの振垣筋の圓よりへのまき  
へまにまあ小打但他こ小振くらふ  
まら又一筋他り又一筋首と極  
く極かぬる例に削極切極極

△大和國當麻系弓矢法

大和國當麻系弓矢法

國行 中上ノ華表同黄穴乃上ノ強と打  
切刃の強九ノ線ノ角ノ強  
片割多ク是強又乃刃之亦も同刃也

友徳 中ノ先鋒 未利

友長 利光 并日

女行 下上 有光

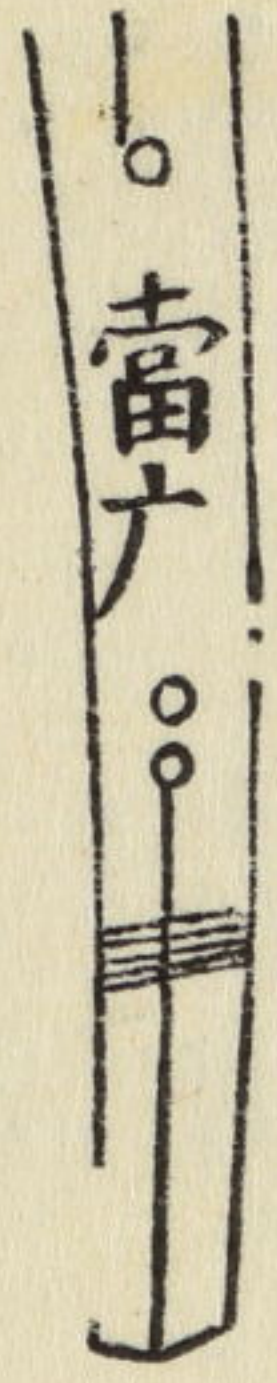
女子 有後

有法原 女子

次有 富ノ先鋒 侯長 戸掛恒

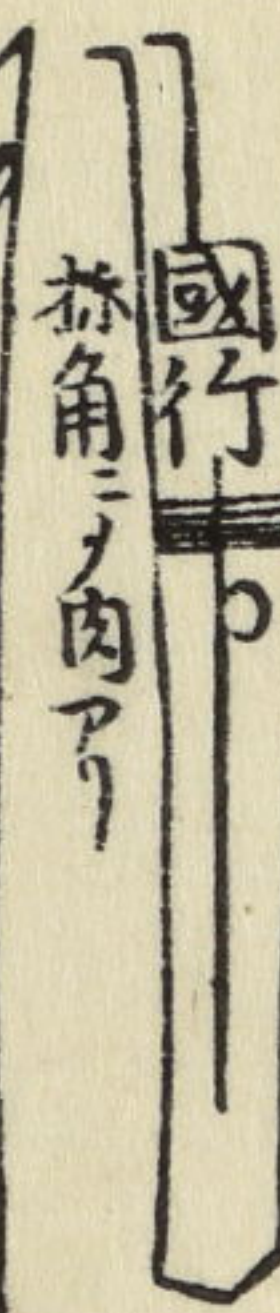
當座 中上ノ他 怨怒ノ法左刀ノ強弱  
廣く寸長一切先鋒と云々ノ強弱  
地之悪、まゝと云々細之鷹立及乃ハ  
強り及之ハ細く焼出にて一尺計  
乃及之強弱也、又ふとく、又ふとく  
一、まゝの小口、強さかおろそき、沸及  
一、刀ハ先鋒及以焼出むちた刀ハ沸

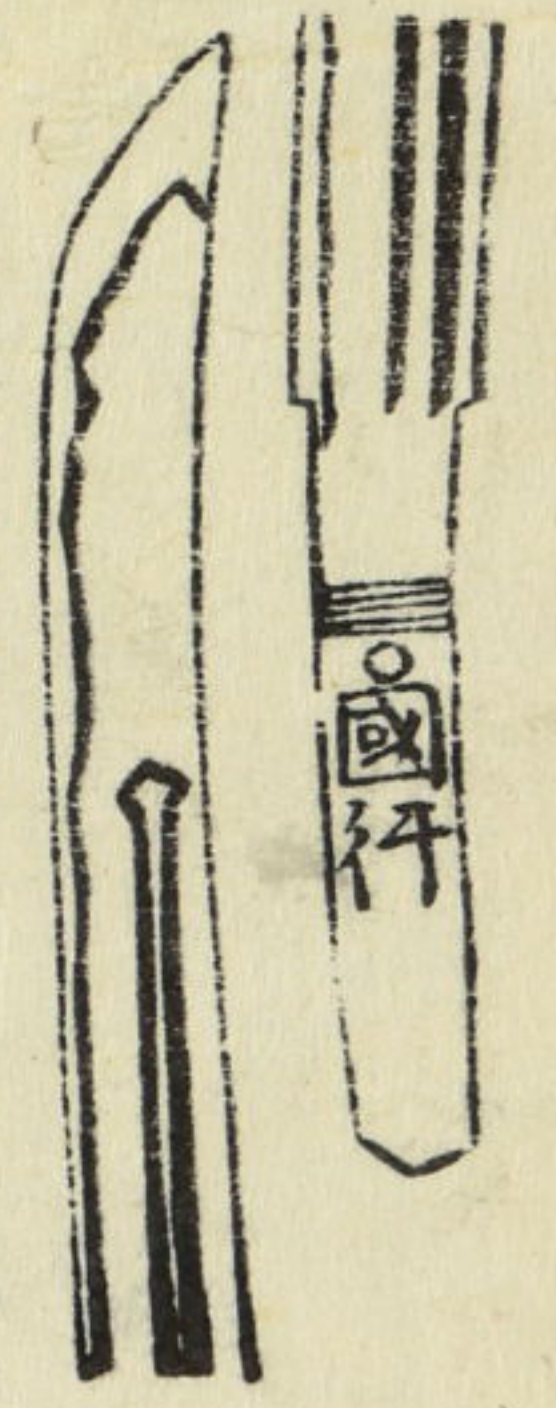
かしくりるる大剛ハゆり多記云々以他  
扱及之強と打り、持之心先削及  
横折自然直進、強弱も同但刃ノ強  
みありと中下ふふまなり、秘書小云刀ハ  
女短く幅とひろ、他り先乃及と云々、  
焼出むち



一、國行 中上他 並後行 友徳 友徳  
未利代云々、ハ系、亦ふとく、云々

但更富ナ也





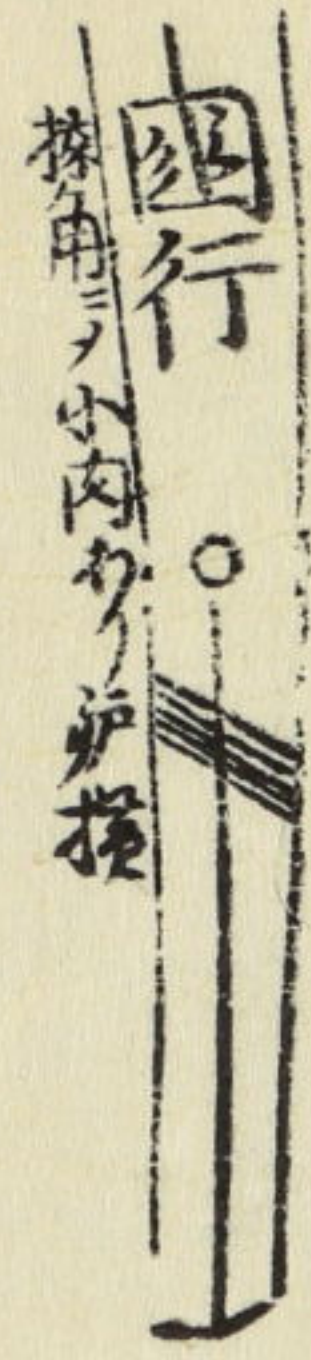
上カのちすわんばあごの度と器さく  
是大和のあまこし

おりやまつめを焼つあまこし  
白おろりまもあまこし

大和  
高木園行  
友法友繩  
友行をれ  
とら上り

そよりとへんあまこし  
こは佛さくこし

地をりてらあまこし  
地佛てあり

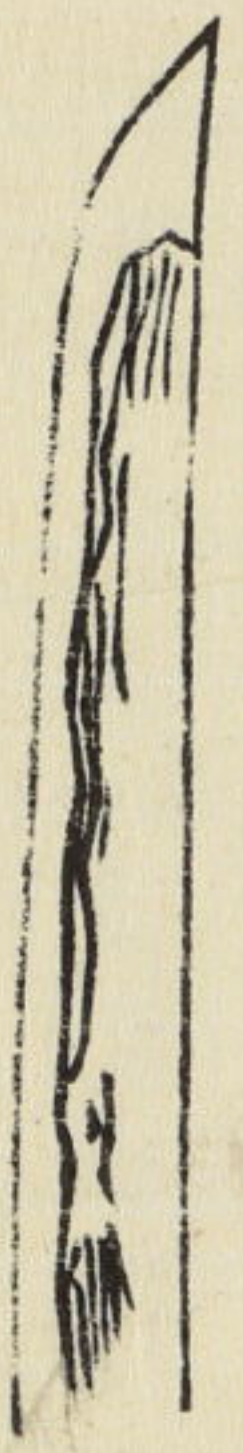


園行  
標用は小内かりゆ様

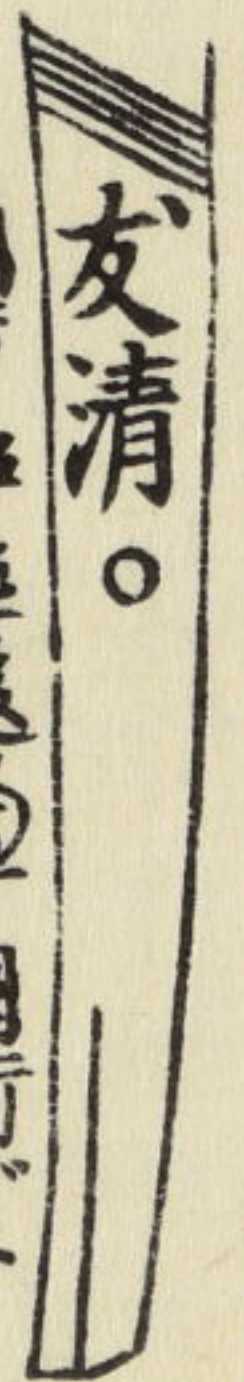


園行

園行



友清  
高木園行が子系果さる



友清  
角ノ河垂遠高木園行が子

泉氷  
下上  
光の流層益法  
高木園行が子系果さる未見



泉氷  
角ノ河垂遠高木園行が子

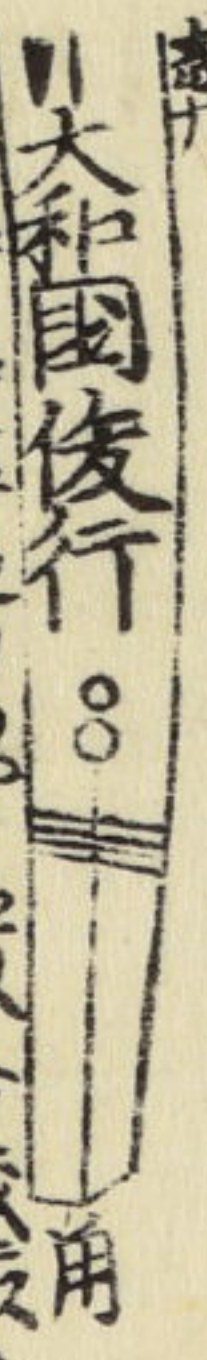
友行  
トモユキ  
下上  
友法が子系果さる

好角



大和包氷  
大和包氷は修り包氷  
より佛にまらしんふ  
佛さくこし系果院  
のこしは又もあり

俊行  
トモユキ  
下上  
園行が子系果さる



大和園俊行  
角ノ河垂遠高木園行が子系果さる

一有後 友清の孫の系名あり

角 小内あり伊白  
○有俊  
長有俊と云

一光光 尚二 系名ニ未だ一代

角 小内あり伊白  
○光光  
草子法上と云

一有 有法陣の子の系名あり

角 小内あり伊白  
○有  
草子法上と云

△大和尻無系名秘候

則弘 後常長因貴の下の打二宮路の時の  
上三打逆丸の湯割に伊直遠近三角

弘村 横手等と云  
肥列菊地と云

則長  
女子 則貞

則長

則長 下之他 後醍醐天皇之孫は  
尻無志乃の孫なりと云一孫は  
くひと切先つともやうに唐紅並と  
好くやく但一小札もぬ一浦乃の  
に傳わり小札ぬも是あひのり不  
の浦と傳ふと又とく札も一浦あり  
一尻無三代目孫あり祖文親と云  
孫の者まり先二代の大和則と云打  
國乃字打す孫の大和則と云打  
秘する忠先割取乃やと云と云の  
へ女ふと云と云と云と云と云と云  
へのめふと云と云と云と云と云と云

大和則長作

栞角 同抄伊と云 二八頁

大和則長作

大和角

角ノ内ワリ弁曰  
大和則長作

△大和手権之系易秘法

**包永** 中ニ他〇伏見院御宇大和手権位人臣等此  
平三ノ刀ハ山國采法血布一教月費六ノ  
上三流打御指ハ振表同費六ノ上三  
打御指御指近九心〇刀取指九一  
あひつゝありらうこうま

**包永** 中  
利中

**包法** 下上  
揚衣等

**包利** 中  
長派員兼此

**包次** 文殊四ノ元祖  
平三ノ流

**包行**

**包貞**

**包真**

**包持** 兼永法  
核固御

**女子**

**包定**

**包俊**

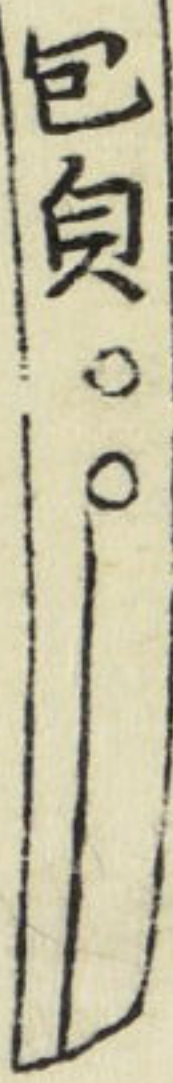
**包永** 中他 後醍醐天皇元享のころ  
手権太刀勢去一徳中及き手権廣  
く唐兵胖幸文んころり切先取ま  
やりたり流定りて松同いんこま

地を垂く又乃や死御手権中といん  
もがそくや死御手権のころあく一尺  
たりとよりひろのころり乳又と権を  
勢一わ〜と候りたり流もまとい  
く〜と候り流乃いんま乃ぬり抱乃  
上小と金派をひひ〜と候り  
いんをさ〜と候りたり流  
〜と候り又もま〜と候り  
〜と候り切先乃内〜と候り流又ま  
小向〜と候り〜と候りもま〜と候り  
〜と候り流乃〜と候り二代ありと候り  
上と候り他乃刀と候り流もこ  
地と候り〜と候り〜と候り  
乃の九列安吉乃少〜と候り流  
御指一候他乃御指と候り刀  
ひ〜と候り御指も上御指と候り  
〜と候り流乃乳又〜と候り中抱也  
物他乃〜と候り御指と候り



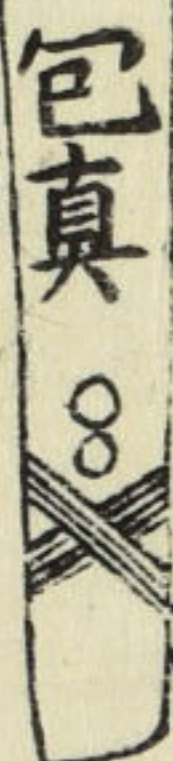


一 包貞 カササチ 包次が子に系ああり



一 包眞 カササチ 包利が子に系ああり

〆猪の位号係四郎丈珠  
四郎が子孫



大永十年二月日

一 包氏 カササチ 下と 大和守の位人徳列へ下

て志津に任色乃の字を改て為氏と打  
是志津三郎と云く多々巻部

● 包を流也云々 延慶の法大和國住人志津

と号す我孫為氏小同は是小切と日

化と云他又云らひくおはく佛海一可及

と焼くろろぬ一地と老りとく振る目

と云ひひりりり切らると云忠株味く

横河式に横下ひかたもあり一代流流

大和守の位  
巨成作  
角ノ小因のり河野遠

〇〇包成  
角ノ小因のり河野遠

延文五年五月日

一 包光 カササチ 系あ小不

角ノ河野遠方の小因をた作り



一 包英 カササチ 系あ小不



△ 大和保昌系あ秘後

四光 カササチ 貞吉 サタヨシ 中化云光子

貞吉の下落とひく申小縁と打編  
指も同の刀指拍を小切ひく持角  
心先一文字たりありと云も同の

貞宗 サタムネ 下と 〆光義及元弘と云

貞法 サタノリ 下と 貞系子

女子 貞奥 サタウキ 貞系子

一 貞吉 下と上他 後醍醐天皇元徳の法  
大和守保昌系あ 右乃乃海長し福ひ  
ろく唐紅小船松岡たにめと地と云



まゝ一た刀も刀もえ乃又と焼けむる但  
刀のやゝ久りもえ乃焼けぬのむり  
棟乃秀へ連毒を湯をくむと入へ  
日棟小湯をくむも焼くは他へ豊ふ  
悪目あれた焼くさる又焼乃あられ  
ざりもあり

○大和国住藤原貞吉



○  
藤原貞吉作  
角ノ小肉わ伊技

金吾藤原貞吉

宗元金吾藤原貞吉

大和国高市郡住人九連村藤原貞吉  
角ノ肉之技の伊技

一貞清 貞吉小治かりて多し忠柱  
桓尹えぶの切忠乃棟角所て同

忠乃棟やまのりハ摸  
○忠押形未見

一吉光 吉力ハ稀ハ刀ハ能クえり  
此の縁ありく他へ連又ゆえ形

忠ハ棟たふ九一先細小片山横や  
ざりニ字銘ふつめく打少も教  
小徳さあり○教甲ハ栗田口教  
吉光ととり○法四日路日吉光栗

田日三人因横ニ入山城ニ去一人ハ上より  
とき右乃吉光ニ忠押形未見

△大和子平院系系秘訣

行信 ○龜山はゆき 俊正 下 仍信子

女子 祖次 下

主業 主弘 中上代  
ゆきゆえの系主系ふりあり  
○龜山はゆき

空之 ○空之 康之 ○空之  
ゆきゆえの系主系ふりあり  
○空之

四吉 金玉丸 四吉

力玉

金玉丸

一玉

カ

如子

登久

一千平院（中上） 正元乃吹を刀のまきこ  
 及多し指ひり九株小他り（地多）  
 くつり一並又小小是と焼入る彼お物  
 乃とく系と焼入る（礼又もる）又も  
 言め小白く（些）法を切らん中地  
 杖入（飛）た（足）をめり（一）後松松園の  
 心ありは他物り（ま）く（と）云（は）を物い  
 入る（是）乃（法）が（る）あり（中）心（の）乃（多）  
 乃車ち方ハ移の（平）車（通）車（中）の（平）  
 横なり但脾胃と二三寸横（平）中（心）の（乃）  
 先へ大車通るも多し子（平）院（の）路（を）打  
 する（以）祖（父）親（孫）乃（足）分（や）院（乃）  
 小おひる（忠）乃（於）株（株）角（角）乃（く）内（を）  
 ねどれめん（と）あ（く）乃（ゆ）へ（ふ）り（て）九（株）  
 乃とく（乃）く（乃）り（先）ハ（割）り（り）と（多）り  
 とお丸め（ら）や（う）小（ま）ら（ん）他（礼）と（と）

祖父 〇千平院

行信（中）

〇行信

角（小）肉（乃）り（下） 角  
祖父平院を子孫分る院とゆ也

〇行信

角（小）肉（乃）り（下）

行信

行信（小） 千平院

接用（小）肉（乃）り（下） 伊豆邊

行信（小）乃（小）い（小）乃（上）手（入）是（と）父（乃）院（を）  
 太（乃）弟（乃）面（目）我（乃）院（の）上（は）者（者）  
 角（小）肉（乃）り（下）

千平院

角（小）肉（乃）り（下） 伊豆邊

行信（小） 千平院

接用（小）乃（小）角（小）肉（乃）り（下） 伊豆邊

〇千平院

是孫子の院之行信乃孫（上）乃（各）弟（乃）面  
 同費穴の下（乃）乃（千）平（院）と（ゆ）也  
 名ハ多し 祖父行信と申（は）四（乃）乃（千）平（院）と（ゆ）也

〇洛書 大和千平院

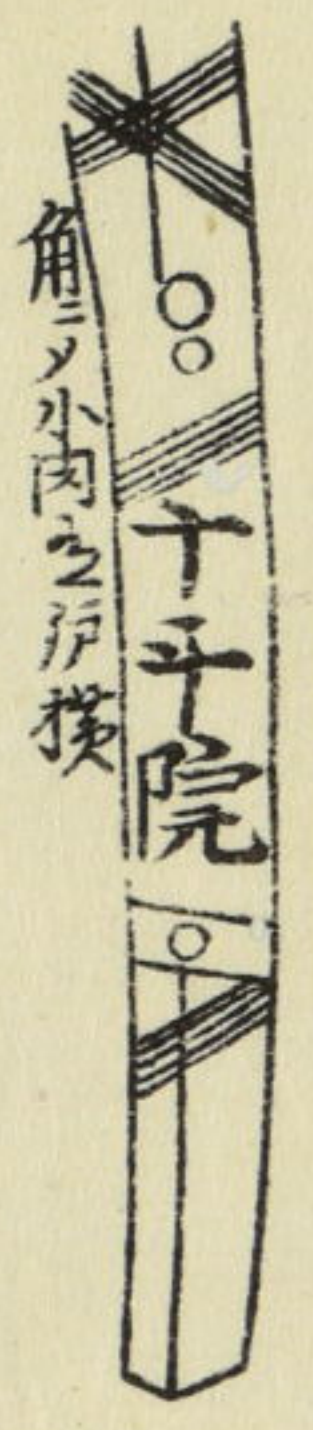
上 四行九

行信子世名三伯父千手院と云

○千手院

角

○千手院



角ノ小肉之戸様

千手院

在丸ノ戸様至遠

角ノ小肉カク戸  
○千手院

○千手院

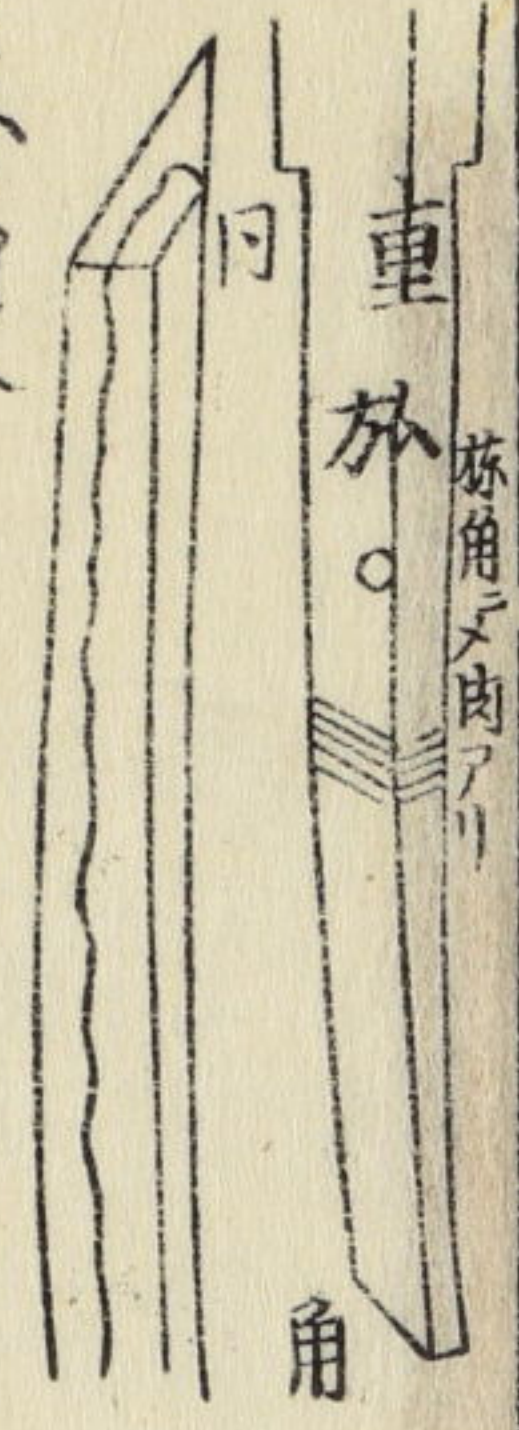
一重弘 仍修重弘と先祖より  
金五圓吉多力王康重康次  
定重を名底示初形海一芝重家  
唐書ひろれと焼切切と一七湊合為  
小重なるあり ○重弘刀ハ行進遠の  
傍行刺と中中あめろ指之細指も  
乃行刀同又云心記丸と色も作ひた  
蓋もあり角も丸と丸と色も未と  
大形同

千手院  
重弘

角ノ小肉カク戸様至遠

重弘

角ノ小肉アリ



角

一康弘 ○康重

定重ノ世名子之系  
是アリ

是八行信方形ハカク重弘千手院と云  
之康重と云千手院と重弘之類之大形  
行信と重弘と云千手院と云千手院と云  
乃と云重弘と云千手院と云千手院と云  
信と云重弘と云千手院と云千手院と云  
折と云千手院と云千手院と云千手院と云

○千手院是重

是重

様多様抄之角ノ小肉カク戸様下

是

○千手院是重

定重 重弘子

角ノ小肉カク戸様下

○千手院

日孫

○千手院



重弘

力王 系馬ニアリ。四糸院造天福公

力王 角ノ小肉あり。伊也遠

角ノ小肉あり。伊也遠  
 角ノ小肉あり。伊也遠  
 角ノ小肉あり。伊也遠  
 角ノ小肉あり。伊也遠

力王 角ノ小肉あり。伊也遠

金王丸 國吉系馬ニアリ

金王丸 國吉 角ノ小肉あり。伊也遠

國吉作 角ノ小肉あり。伊也遠

金王丸 國吉 角ノ小肉あり。伊也遠

國吉作 角ノ小肉あり。伊也遠

義弘 系馬小肉あり。建治之比

義弘 系馬小肉あり。建治之比

大和国添上郡千手院義弘

一 信吉 系馬

信吉 系馬 大和国添上郡千手院義弘

信吉 系馬 大和国添上郡千手院義弘

信吉 系馬 大和国添上郡千手院義弘

長谷部 國信 角

行光 大和系馬ニアリ 一代源治

行光 大和系馬ニアリ 一代源治

定利 大和系馬ニアリ 一代源治

定利 大和系馬ニアリ 一代源治

大和千手院

一 國永 大和系墨刀 拵目 元曆比



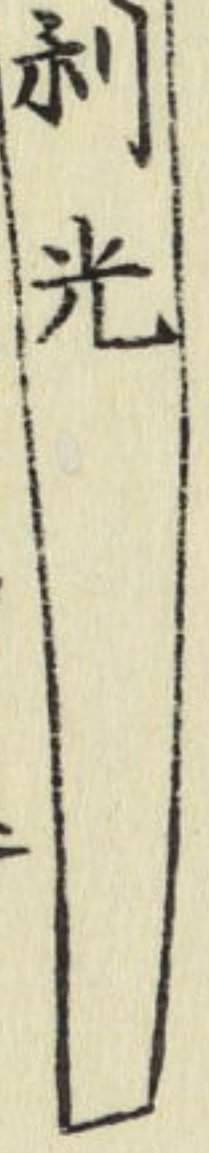
一 未行 大和系墨刀 一代拵治



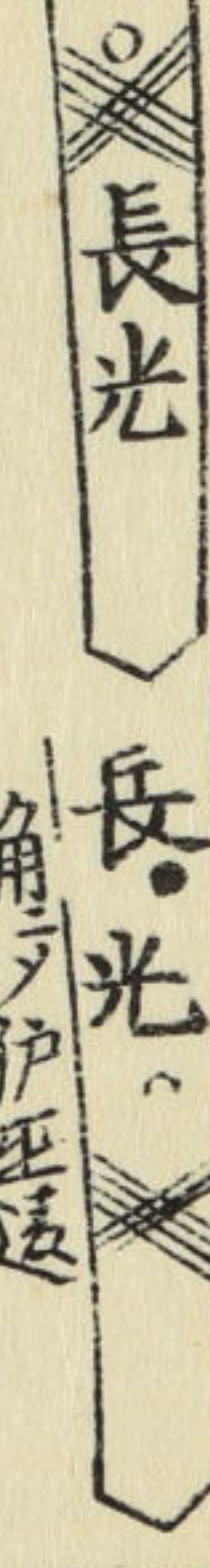
一 延吉 大和系墨刀 延吉院文保比



一 利光 系墨刀

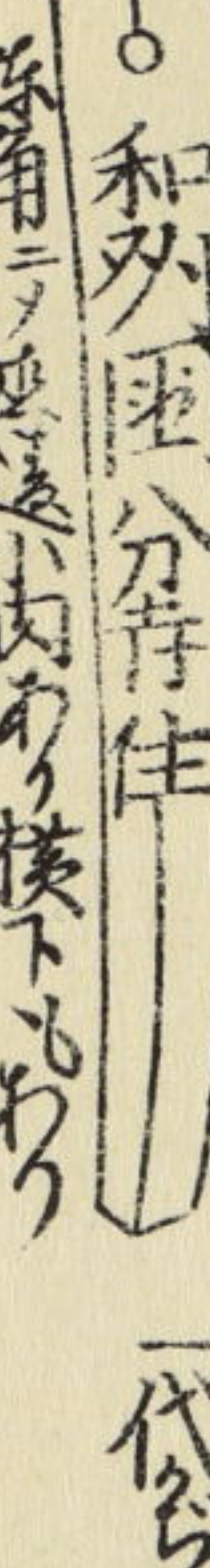


一 長光 下之上 延吉院比 延吉院比

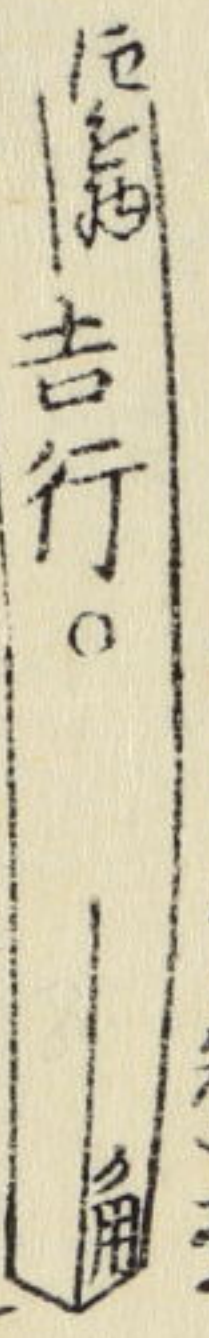


一 友則 友則

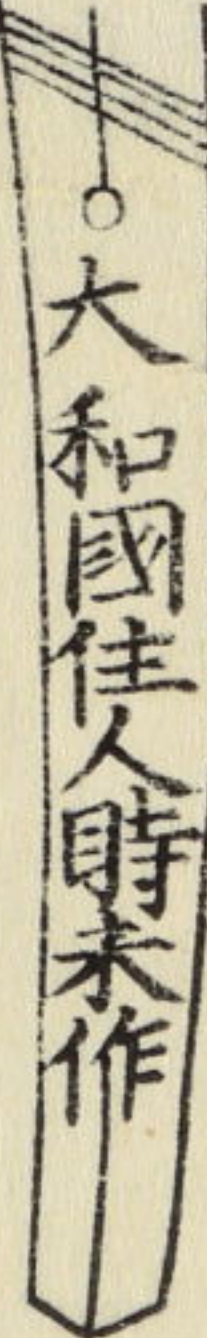
一 和列國分寺 下之上 兼保比 拵接比



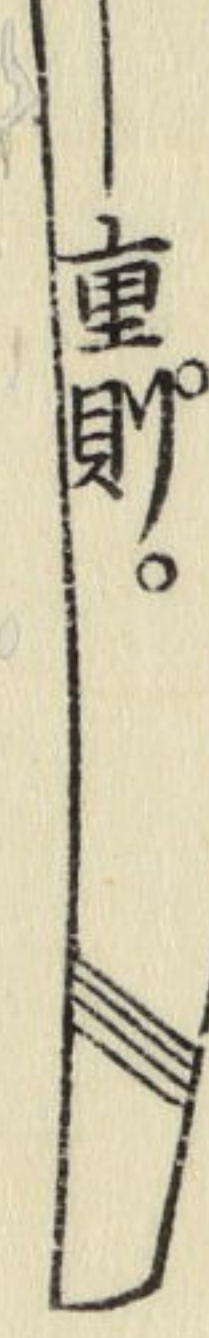
一 吉行 一代拵治 吉行



一 時未 一代拵治 大和國住人時未作



一 重則 一代拵治



一 長國 長國



一 長吉 長吉

大和初吉行了龍門山本長吉作

△字多物之系系墨秘訣

系系墨ハ鐵中より鐵中の内ニ  
入路於ハ大和の内あり仍て系系  
系系と引急ニ系系の内字多國系  
と云ふ後鐵中ハ信と云ふ

國光

國貞

國次

國真

國弘

國友

國吉

女子

國宗

國宗

國森

國光

國房

國久

國久

國房

國長

友次

友則

友久

友久

友重

平國

字多國光

角ノ内ヲリ

字多國光

角ノ内ヲリ

字多國房

孫角ノ内ヲリ

國友

字多國友

角ノ内ヲリ

小内

國長

字多國長

國光子國の字多國長の子あり

國友

字多國友

角ノ内ヲリ

國宗

角ノ内ヲリ

字多國宗

後越中

角ノ内ヲリ

字多國宗

大和字多

上

一 回久 一 宗友 系忌ニ云

一 中多國久 角ニ小内あり 宗友

一 國安 字クニ系忌ニ云

一 國安 角ニ辨曰

一 未國

時代國房のほは 拙九ニ

一 未國 建の 未國

古今流家合歌大全上終

